

みてゐて、期米賣買そのものの實質は決して賭博的、又は一攫千金のもので無いにも拘らず、これを行ふ人々が心のドン底に於て不真面目な者が多い。

その結果は少しく儲ければ、心をゆるめて、もう大丈夫であると思ひ、所謂桁を外して金使ひを荒くしたり奢侈に長じたりする。又これに反して少しでも逆境に遭へば忽ち意氣銷沈して常に潑刺たる元氣を持つて居らねばならぬ機敏な取引に於て、意氣地無く滅入り込んで了ふ様な事がある。斯くの如き有様では決して定期に成功する事は覺束ないのであつて、初めの出發點に於て、最も真面目に、最も健實に少しも浮いた氣分無く、自分分は定期取引を以て、歩一步貨殖致富の道を講ずるのであるといふ堅忍不拔な決心でかゝらねばならぬのである。この決心が出来て居れば、大局に眼を注いで綽々餘裕を存し目前の大慾に迷はず、最後の成功を贏ち得るの

▽失敗するの何故であらうか

で、一勝一敗に齷齪せず。

得意淡然、失意泰然。

の妙味を味はねばならぬのである。

◆失敗するのは何故であらうか

正宗の銘刀は切れ味はよいが、使ひ方によつて却つて身を傷ふと同じ様に、腦中一片の定見無く、未だ研究の初歩をも踏まずして、只利慾にのみ走つて無意味の賣買を爲し、或は賭博視してこれを試みるが如きは失敗の第一原因といはねばならぬ。假令僥倖にして一時利益を得たとしても、畢竟これ砂上の樓閣で、一朝にして崩壊を免れない。恚うした失敗の素因を持つた人が、迂濶に賣買を初め、時として偶然の僥倖があるにしても、結局大失敗に終るところから、世人は稍もすれば定期は危険なりとの思想を抱くに至るのである。然らば如何にして危険無く賣買が出来るか、失敗を

絶無にして必然成功すべき萬全策があるか、吾人は進んで此の秘鑰を開かねばならない。

◆期米研究の大綱

言ひ換へれば、期米はごういふ風に研究されてゐるか、又期米研究の浅い深いでどれだけ賣買の上に利不利があるか等に就き一言したい。

期米はいつも安値を買つて高値を賣れば必ず儲かるので、唯それだけが期米賣買の要領であるが、その安値といひ高値といひ米價の見定めを附ける事は容易なものではない、それで多年定期界に出入してゐる者が、高値安値の見定め即ち期米賣買の研究は一生涯を費やすも到底判るもので無い、と嘆聲を發し、中には永遠の不可解であるとしてこれが研究心を挫折してしまふものもある。併し相場は不可解のものであるからといつて、着實な研究と綿密な觀察とを度外視して、所謂盲目滅法に勝敗を争ふといふが如きは、賭博者流の事でも無く論外である。

は、賭博者流の事でも無く論外である。悠々たる天壤、寥々たる古今、宇宙人生は到底不可解の謎であるとしても、今日の哲學科學は漸次宇宙人生を闡明しつゝあるので、それと同じく期米の真相、米價の變轉は極めて不可解なものであつても、これが研究は漸次その不可解の分量を少くして來た。殊に期米相場は吾人米食民族にとつて必須のものであるから(前號詳説)古來人智を盡してこれが研究を進めて來たので、今日に於てそれ等の故きを温ね新しきを知り、種々の期米研究を綜合して攻究すれば、一道の光明燦然として輝き、彼の期米は到底不可解として悲觀する者の如きは、淺見未熟、薄志弱行の罵しりを免れないのである。然らば期米研究は今日如何に進んで來て居るか。先づ

◆古來の研究法

を述べ然る後に新古を綜合して、期米に一貫する眞理を明かにすれば、

從つて賣買の基準方策を發見するに難くない。

そこで、古來行はれて居る、研究方法を分類して見ると、(一)數理派、(二)歴史派、(三)理學派、(四)野線派、(五)禪學派、(六)兵學派と大體六種に分つ事が出来ると思ふ。その中で研究の精粗、單複、深淺に就き勿論吾人は一家見を有するものであるが、先づ夫等の内容を左に列記して見やう。

一、數理派

これは數學的に計算するので、例へば今年の米作生産高は何千何萬石、古米の殘存は何萬石あつて、これを消費する人口數何千何萬人として生産と消費を比較し、又た通貨及び輸出入米の増減を計算して、月中の相場、節毎の高低を算出する方法である。

二、歴史派

過去の經驗に由つて將來を劃策する事は吾人が日常爲しつゝある所であるが、これを大にすれば即ち國家社會の歴史となつて歴史の價値は只に過去を知るに止まらず將來を觀測する根據となる。それと同じく既往に於ける米價高低の徑路を歴史的に研究して未來に表はるべき相場を

豫測するのが此派の研究法である。

三、理學派

これは易斷、干支、九星等に依て相場を觀測するので、宇宙間の事物萬象總べて永久の眞理によつて循環的常軌の上に立つもの、相場も亦社會種々雑多の出來事、經濟上の出來事が總べて影響するもので、陰陽五行の運行、干支の廻り具合等天地間の眞理に依るに非ざれば到底窺知し難しと爲す一派である。

四、野線派

相場は人氣に最も重きを置かれればならず如何なる材料も群衆心理(人氣)に支配される故に、相場足取りを以て、人氣動搖の縮圖を作り、これによつて前途如何を研究し觀測する。

五、禪學派

此は支那の心境を相場觀測の上に應用するので、所謂明鏡止水底の精神統一を計つて冥想靜座の中に躍然活機を捉ふる研究法である。

六、兵學派

兵學兵法は戰術の研究であるが、相場も亦勝敗輸贏の戰爭であるから、所謂「孫吳」の兵法を應用して米價の觀測術を爲すといふのである。

以上の六種は古來行はれつゝある期米の研究法であるが、吾人は今茲に

夫等の各派に就き優劣を論じ當否を分かちつ必要を認めない、論者による一を擧げて他を貶し、或は極端な者は材料無價値と云ふ如き暴論を唱へて悉く排斥するものもあるが、何れも偏見狹量に過ぎないと思ふ。吾人は一冊の書を読むに當つても悉く書を信ずれば書無きに如かずでこの識見をもつて萬事に臨まねばならない、即ち古來の研究に對しても、悉く信するのではなく、却つて悉くこれを參考資料に取り入れる度量をもち、而も獨自一個の識見を開いて行く遣り方なければ、期米の秘奥に徹底する事は出来ないものである。

此意味に於て吾人は以上列記した六種の方法に敢へて批判を下さぬのであるが、その中で數理派と野線派と禪學派に就いては、猶少しく詳細に説明したいと思ふ。それは本講義の目的が致富貨殖の常識涵養であつて、讀者の多くは期米に關して殆ど門外者と見做し、複雑なものには更に詳述す

▽野線に
依る相
場豫測

る必要があると思ふからである。で、數理と計算に就ては後章を讀むに従ひ明瞭なる事であるから、茲には野線と禪學應用に就いて説明して見やう。

◆野線に依る相場豫測

野線は米價の高低を圖表に示して、これに依つて豫測を立てるので、圖表に現す高低の形狀を足取りといひ、足取りの種類は左の三種である。

星點表 これは値段を表示するに黒點を以てするので、其値段と値段との間は小さき線を以て連結するのである。

釣狀法 は前法の黒點を除いて、五錢引なれば五錢以上高下する毎に、十錢引なれば十錢以上高下する毎に釣狀を描く。

垂線法 は一日の値幅或は一ヶ月の値幅を直線に描き、これに各寄止を符合に記入する法で、其日を見て翌日の高下を、其月を見て翌月の高下を見、或は高下の日數、月數を見るに此引方が最も必要である。

斯くの如く野線は過去の高低、足取り形狀を見て將來を豫想する有益な方法でその足形によつて高低を窺知する法が古來傳へられて居るから、參

考の意味で左に名稱と性質を示さう。



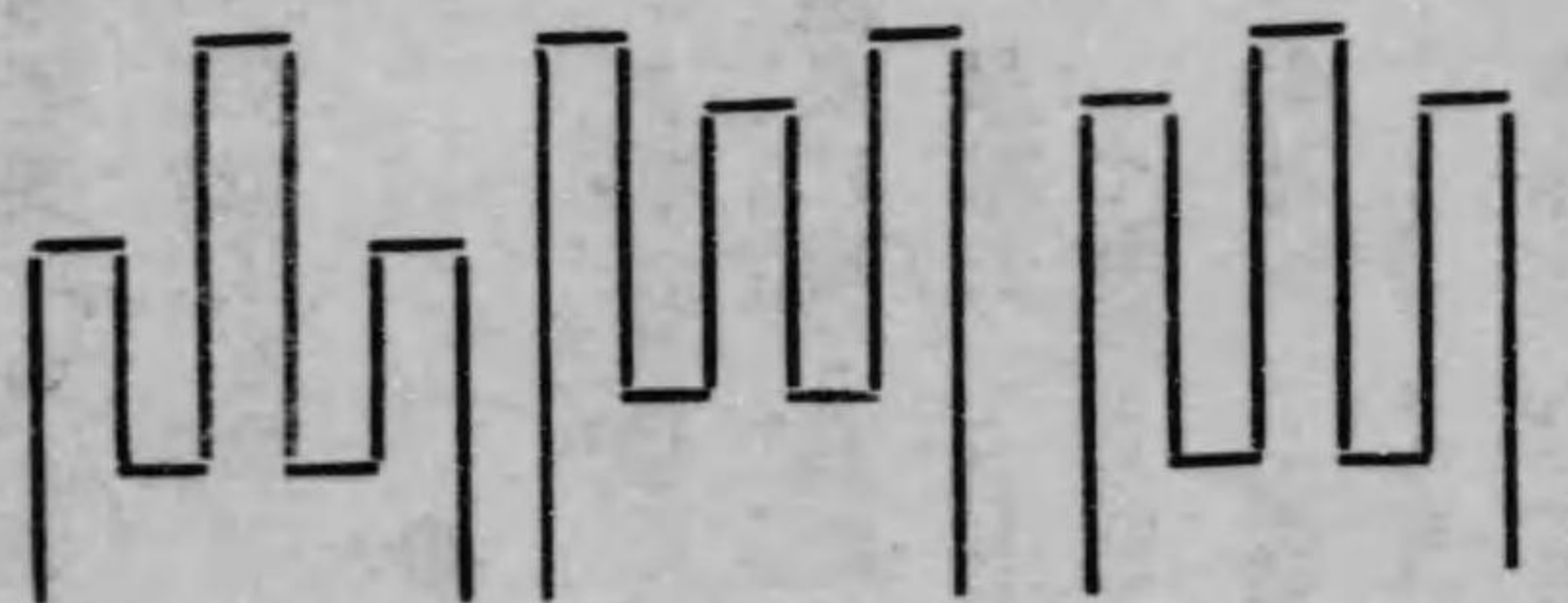
上圖のやうな足形は「毛抜」といつて、上に向つてゐる

ある場合は相場下落の兆、下に向つてゐる場合は「逆毛

抜」といつて、相場昂騰の兆とし、(イ)と(ロ)と能く揃ふほど此の性質を

十分に表はすので毛抜き百丁下げ、逆毛抜百丁上げと観

測したものである。



上の三圖の如き足形はこれを「三像佛」又は「門」といひ、上に向つてをれば下落の兆、下に向つてをれば「逆三像佛」又は「逆門」といつて相場昂騰の兆とし、中の凸部が長ければ長いほど、其性質を能く表はすもので、十銭引にて此形を上にて作つた時は、百丁五十丁は大丈夫下落する、下に向つて作つた時は反對に同じく昂騰す

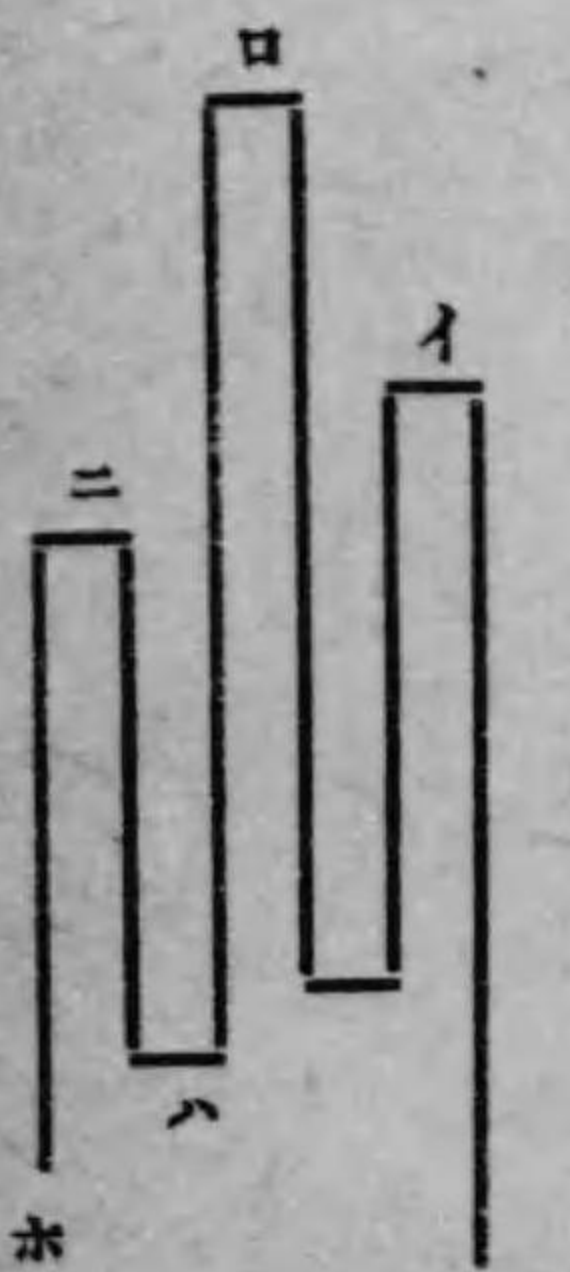
▽天井値の観測

ると傳へてゐる。

野線によつて將來の相場を豫測するには、右の如き足形、或は垂線法に依り寄止の具合と共に、日數の如何をも併せ考へて斷定を下すので、それ以外には何も無いから、圖表に現はれて來る形狀によつて相場を観測する法なのである。そこで野線観測法の二三例を擧げて見れば、

◆天井値の観測

段々き上に進み、一時氣迷ひとなり、更に大上げのあつた時、其頂上にて左圖の如き足形となれば即ち天井値である。



(ハ)を下廻りすれば天井打と見る。

(イ)まで上り、一旦下て再び(ロ)に上り復下て(ハ)に至り、三度目に引返しても力弱く、僅かに(ニ)に及びて(ホ)と下り

▽底値の
観測

若し(ホ)より引返して(ニ)を越わたらば天井と見ることは出来ない。
又同じく天井打で左圖の如き足形となる事がある。



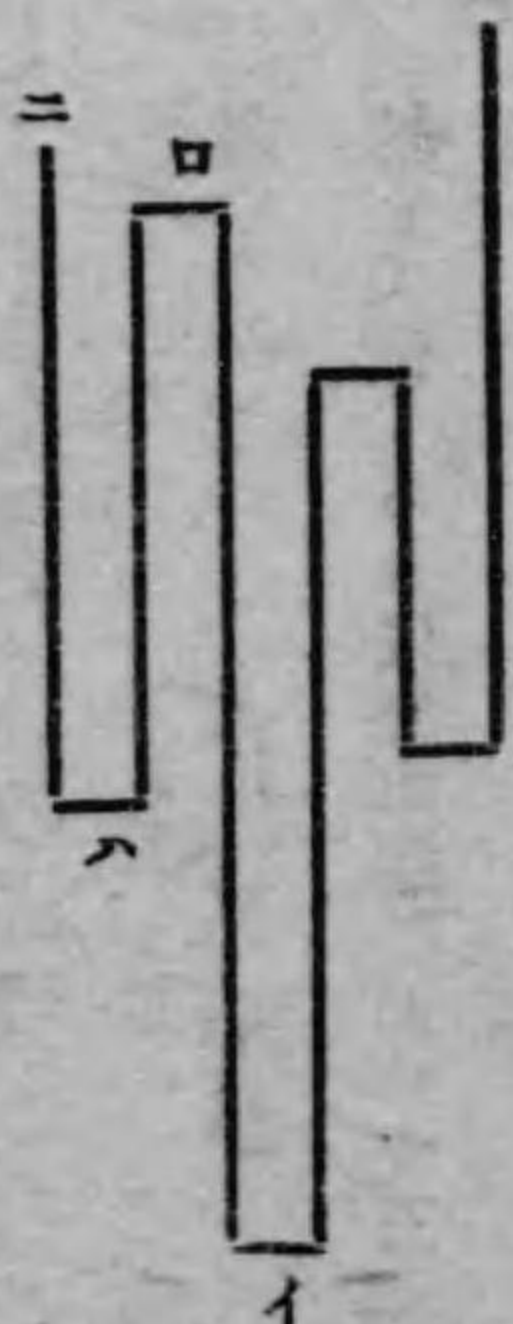
(イ)に上り(ロ)に下り、再び(ハ)と上つても(イ)を越ゆる事が出来無い場合には

既に相場は下向きである。(ハ)より更に下りて(ロ)を越して(ニ)ともなれば天井打なる事が確められるから(ニ)へ下るのを待ち受けて賣ればよいのである。

天井打を見て(ニ)で賣つた後、相場上りて(ハ)を上抜くことがあつても(イ)に達しない間は方針を變更してはならぬ。

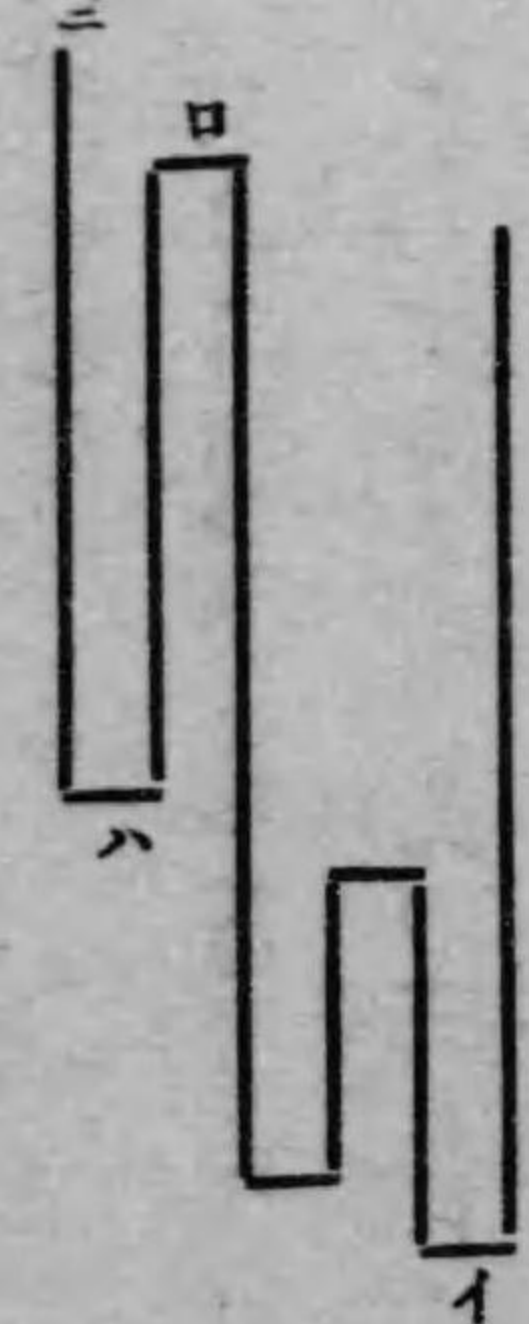
◆底値の観測

相場が、數月又は數日下落して、市場は弱氣を唱へ、世間に強氣を唱へるもの無く、自己も亦此相場は近日崩落すべしと思ふ場合、線線に左圖の如き足形を示したなら、相場は一度底を入れたものを見るのである。



下押して、(イ)と突込み急に(ロ)に引戻して再び下向き(ハ)で止まりて(ニ)の如く(ロ)を上廻りすれば(ニ)と吹き

出した處を買へばよい。又左圖の如き場合には、



(ニ)と上つた所を買へば好い。又(ロ)と(ハ)の間で保ち合、此間を二三度往復した後ちに(ニ)と吹き出すことあり

此場合は愈高いのであるから極力買へばよいのである。

以上は野線に依る期米観測の梗概を述べたのであるが、曩にもいへる如く、悉く書を信ずれば書無きに如かずで、悉く野線を信するので無く、これを参考にする見識が無ければならない。次に

◆禪學の應用に依る期米観測とは

如何いふ事かといへば、古來期米界の先哲といはれてゐる羽後莊内の本
間宗久翁の亞流で、精神統一、禪の靜慮冥想を以て高低觀測の秘奧として
ゐるのである。宗久翁から極意を傳承したといふ葛岡翁の『三位問答』に
「相場の動きを見るには先づ我一心を靜めざる可らずと悟り候て、夫より禪を修め學理を以て
相場を悟る工夫致し候」

とありて、宗久翁は酒田の大徳、智門禪師に就いて坐禪工夫を凝らした
同翁の實驗録に

「今日より商場なしと思ふ時三日待つ可し之れ極意なり」

といつてあるが、此の三日待てといふのは禪的に心氣を靜め、所謂虛心
平氣の觀察を下してかゝれといふのである。凡そ期米師が未來の高下を豫
測して正鵠を得ないのは我一心の平靜ならざるに由るので、何故に心が平
靜で無いかといへば宗久翁は

「總じて損する人は慾と迷ひよりす云々。これを以て能くく慾と迷ひを去るべし。」

といひ、その慾から出る迷ひを去るとは精神を平靜ならしめよといつて
「心を靜めて慮を多くし損を覺悟して行ふ時は、當らすとも遠からず、それ斯くの如きは十人
中の十分の一人なり、嗚呼心を用うる者の珍き事や。」

といひ、又

「無念無想の心鏡に映寫するところ、悉く眞影にして正鵠を過たす云々。」
「相場道に於て失敗するは畢竟私心を掃むによる無我の心になりて觀察を下さんか宇宙萬有掌
を指すが如し況んや相場の高下おや云々。」

と云つて居る。要するに禪學を相場に應用して高下を判斷し必勝を期す
るといふのは、禪的修養を積んで、精神を常に平靜に保ち、所謂明鏡止水
の如き心鏡に居つて賣買の駆引をする用心である。而して精神統一を計つ
て事に臨むといふのは何事にも肝要で、禪は三界唯一心、心外無別法で精
神統一を主眼とするのであるから、古來或は武士の心膽を鍊るにも或は武
道の極意の上に、又た彼の茶道俳諧の上にまで應用されて居るので、これ
を期米研究に應用したといふ事は、宗久翁の卓見であり、その亞流を利益

したこと又た甚大なものに相違無い。殊に期米の如き敏活を要するものに對しては、常に平靜な心を保ち、悠悠と迫らざる心力を貯へて居らねばならぬので、吾人を以て曰はしむれば、相場観測法は種々あつて所有する方法を參考として取り入れる上に禪學に偏するので無く廣義にとつて精神修養を講ずる事は、主要なる點であると思ふ。

以上は古來の期米研究法を六種に分類して概説したのであるが、之等を綜合して見ると

◆客観的と主観的研究

どの二つに歸納する事が出来る。客観的研究とは、前に擧げた數理、歴史、理學(陰陽五行干支九星等)及び野線等に依る観測であつて、主観的研究とは禪學、兵學を相場に應用し、主として自己の精神力に依る観測である。

然るに今日の時代にあつては、社會組織が複雑を極めて來たと同時に、科學の智識は屢々乎として進んで來たのであるから、客観的研究材料も激増して、例へば統計の完成、天氣豫報機關、通信運輸機關の完備は昔の期米界には比ぶべくも無い。又主観的研究に於ても經濟學の如きは、古來の禪的、兵學的観測の上に、更に加へられた新智識である。

即ち今日の期米相場は、殆んど世界的となり、統計的となり、科學的となつたので、區々たる小智小策を以て之に當り得べきものでない、通信機關の完備は、各地の相場を電信電話に依つて急速に傳へ、交通運輸の發達は各地の相場に平衡を得せしめ、國際關係は相場に世界的影響を與へる等今日の期米観測は

◆時代に適應する新研究

を加へねばならぬ譯である。而して今日の期米観測については、過去現

▽時代に
適應す
る新研
究

在將來に於ける天然の、人為的、其他諸般の關係事情を明かにする便宜が
備はつて來たのであるから、觀測に必須な事項は、

- 一、全國の米作及び生産と消費。
- 一、全國の在米高。
- 一、外國の米作關係。
- 一、米穀輸出及米輸入高。
- 一、國際關係。
- 一、通貨及金融狀態の觀察。
- 一、一般物價との關係。
- 一、農家の現狀及び其意志。
- 一、酒類造石數の關係。
- 一、氣候及び氣象の豫測。
- 一、正米需要の狀況と取引値段。
- 一、各地米價の比較。
- 一、各地の取引と米價線の様態。
- 一、賣買大手筋の思惑、實例。
- 一、全國強弱人氣の潮勢。

其他米價に影響する事情は古來枚舉に遑無きものであるが、今日に於て

▽期米賣
買の要
訣は如
何なる
ものか

は以上數へたる如き夥多の材料が、日々の新聞紙等によつて或程度迄綿密
と正確に觀測し得るのであるから、苟くも期米に指を染めんとする者は、
出來るだけ夫等に對して十分の觀察を遂げ、未來に表はるべき米價を豫測
せねばならぬのである。
さて、これまで述べたところは、觀測につき抽象的理論であつたが、進
んで具體的に、

◆期米賣買の要訣は如何なるものか

を概説したいと思ふ。そこで、期米賣買の要訣を説明するためには先づ
相場の性質を一言せねばならない。

元來相場といふものは、之を約言すれば「動靜」の二途に過ぎぬもので
ある。そして此の「動」と「靜」とは一つは積極的で一つは消極的、即ち
此の二つは反對性のものであるが、而も其間に微妙な關係連鎖を保つて居

▽時代に
適應す
る新研
究

在將來に於ける天然の、人為的、其他諸般の關係事情を明かにする便宜が
備はつて來たのであるから、觀測に必須な事項は、

- 一、全國の米作及び生産と消費。
- 一、全國の在米高。
- 一、外國の米作關係。
- 一、米穀輸出及米輸入高。
- 一、國際關係。
- 一、通貨及金融狀態の觀察。
- 一、一般物價との關係。
- 一、農家の現状及び其意志。
- 一、酒類造石數の關係。
- 一、氣候及び氣象の豫測。
- 一、正米需要の狀況と取引値段。
- 一、各地米價の比較。
- 一、各地の取引と米價野線の模様。
- 一、賣買大手筋の思惑、實例。
- 一、全國強弱人氣の潮勢。

其他米價に影響する事情は古來枚舉に遑無きものであるが、今日に於て

▽期米賣
買の要
訣は如
何なる
ものか

は以上數へたる如き夥多の材料が、日々の新聞紙等によつて或程度迄綿密
と正確に觀測し得るのであるから、苟くも期米に指を染めんとする者は、
出來るだけ夫等に對して十分の觀察を遂げ、未來に表はるべき米價を豫測
せねばならぬのである。
さて、これまで述べたところは、觀測につき抽象的理論であつたが、進
んで具體的に、

◆期米賣買の要訣は如何なるものか

を概説したいと思ふ。そこで、期米賣買の要訣を説明するためには先づ
相場の性質を一言せねばならない。

元來相場といふものは、之を約言すれば『動靜』の二途に過ぎぬもので
ある。そして此の『動』と『靜』とは一つは積極的で一つは消極的、即ち
此の二つは反對性のものであるが、而も其間に微妙な關係連鎖を保つて居

る。恰も總ての物體にエネルギーがあつて、静止して居る物に活動の力が含まれて居り、活動して居る物に静止の運勢が來るといふやうに「動」は「静」の素因、「静」は「動」の素因となつて居るのであるから、靜中動、動中靜の運機に精密の注意を拂はねばならぬ。相場の「動」といふ中には昂進的の「動」と、低落的の「動」とあつて、前者の場合は高く上り、後者の場合には低く下る。又「静」中には昂進的の「静」、低落的の「静」があつてこれが所謂「淀み相場」を表はし、且つ昂進低落的の分かれ目に於ける「静」があつてこれが「保ち合相場」となるので、動中靜、靜中動の機運變化は多端多様である。

又呼吸といふものがある、それは恰度吾人の呼吸のやうなもので、呼吸(吐く息)があれば次に吸氣(引く息)がある如く、相場に昂騰があれば必ず低落がある。そして呼吸に淺深長短がある如く相場の呼吸にも亦高低緩急

があつて 此の相場の呼吸の(上げ足、下足)は未來に於ける相場の機運を豫測す。つき、甚だ大切なるものである。

相場の呼吸(上足、下足)淺き場合は、相場を動かす原因が無いのか、或は原因があつても動機が熟して來ないのか、強弱兩派が見送つてゐる形である。又呼吸(上足、下足)ともに深く表はれて殆ど優劣の無い場合は、強弱兩派互角の勢ひで接戦 閑なる形。呼吸不同なる場合は、強弱人氣の不同を證してゐるので、呼吸亂調なる場合は即ち相場亂調の證なのである。若し突然深呼吸(相場大暴落)があれば、即ちまた俄然として深呼吸(相場暴騰)があり、その反對に暴騰に亞いで暴落がある事は、吾人の深呼吸の場合同じ道理である。

以上の如く相場の性質は微妙なものであるが、その一端現はれた形は、高からざれば低く、低からざれば高く、高低何れとも決しない場合は、所

▽玄人と素人の區別

謂保ち合で、歸着する所は高、低、静の三様に過ぎないので、安い場合に買つて高い時に賣れば誰にでも儲かるやうに思はれるが、その安い高い場合を見定める事が極めて至難であつて、先づ観測をして夫れから賣買を實行するに當り

◆玄人と素人と區別

がある。即ち定期市場の玄人と素人とは、第一賣買の仕方に懸隔があり方針に差違が分かれる。

玄人は素人のやうに相場を信じ過ぎる事が無いから、目前の高値安値を強いて眼中に置かず、畢竟機運を掴まんとしてゐるので、その時の趨勢によつて相場が高からうが安からうが、一向頓着せずに賣買する。例へば假に十五圓の米が二十圓に昂騰してもお構ひ無しで時の趨勢如何を察してこれを買ひ、又反對に二十三圓の高値から十五六圓に下落しても、まだま

▽仕掛方の要訣を得る

だ下つて十二三圓になつても、ソナ相場に少しもビクつかずに賣るといふ風であるが、併し素人には到底さういふ遣り方は出来無い。素人は目前の相場を固く信じ過ぎるから、絶えず相場ばかり氣遣つて賣買するので例へば二十四五圓もした米が、十五圓にも十四圓にも下落すれば安値に惚れて買ひたくなる、假令買はぬまでも此の安値を賣るの勇氣と決断はつかないのである。

◆仕掛方と利喰の要訣を得る

則ち玄人と素人との別は、期米の研究を積んだ者と否らざる者との差異で止むを得ないが、何れにしても凡て相場は益を全く得らるのである。相場は自然に漂ひ來るもので、人為的に作る事は出来ぬものであるから

時機到來を俟たねばならない。目前の相場に動かされて素人考へて矢鱈に手出しするのは大禁物である。下手な銃獵家はいくら弾丸を費しても獲物は一羽も得られないといふやうなものだが、上手な銃獵家は一發放せば必ず狙ひを誤らないので、それに、引金を引く可き機会を逸しないからである。相場も亦その如く、仕掛又は利喰ひする機会があるのでその機会を見定めたならば勇氣を奮つて脱兎の如く仕掛或は利喰をせねばならぬ。

若し相場波瀾の上に、腑に落ぬ節のある場合は、仕掛は手仕舞してその後成行を眺め、慌てず騒がず焦かす急がず、綽々として胸中に餘裕を存し、而も油断なく形勢に注意して居らねばならない。即ち相場に見据わのつくまではいつ迄も辛棒するが宜い、相場をすべき時機はいつでも来る、儲け損ねたといふて悔むのは、一生に一度しか相場をする機會の無い人で其座人は恐らく一人もあるまい。相場の秘訣は、拙速を避けて巧遅を執る

べきで、決して急ぐ必要は無い。

然るに素人は稍もすれば輕舉盲動して恰も下手な銃獵家が鳥の飛んだ跡へ發砲すると同じで、相場に何時も逃げられて了ふ。

利喰に就て注意すべき事は、兎角の慾に迷つて今十錢上れば百圓儲かるぞ胸算用して十錢上りを待つて居る如きは禁物である。も少しだがと惜しみのかゝるところで手仕舞し、次ぎの仕掛を狙ふのが巧妙な遣り方で、自己の仕掛た相場を基點とせず、一旦の高値又は安値を基點として。その基點から幾干の高下をしたかを考へ、その値幅が五七十錢にもならば一先づ利喰ひして、次の仕掛を考ふる用意を必要とするのである。則ち仕掛を爲すには焦り氣を以て爲すべきで無く、須らく冷靜なる頭腦をもつて相場の漂ひ來るを待つ可く、相場に囚はれずして捕へる、待たざるを以て待つ精神が最も大切な事である。

手仕舞利喰は相場の大勢を觀測して内輪に見積り、七八分の見當で爲すべく、所謂大慾は無慾と知らねばならない。

そこで、此の仕掛け及び利喰ひを巧妙に行ふには、相場の大勢を豫測する事が緊要事で、即ち昂進相場若くは低落相場は如何なる程度に、凡そ何の位まで昂騰し或は低落するものであらうかを豫め推測せねばならない。而してこの推測が期米研究の主要點であつて上來述べて來た如く、或は古來の研究法を參考とし或は時代の進歩と共に夥多なる研究材料が殖わてゐるのであるから夫等を參酌し初めて、

◆相場高高低の豫測

を爲し得るのであるが、本紙上に相場觀測の萬般に亘つて述べる事は、到底紙面が容さないので、茲にはその參考資料として相場の大勢と高高低豫測に就き要綱を擷んで見やう。

◆要綱の一

相場を天体の運行に例ふれば大相場は太陽の如く、中相場は地球の如く小相場は地球に伴ふ月の如くで、小相場は中相場に伴ひ、中相場は小相場を伴つて大相場に隨伴して居る。そして天体が互に引力相關する如くに大、中、小相場は相互に密接な關係を持つて居るのである。

されば今小相場の趨勢を知らんとするには過去に於ける中相場乃至大相場の趨勢に對照すれば、その高低を略豫測するに難くない。

◆要綱の二

米相場に於て一圓以上の利喰を爲し得る相場は先づ大相場と云ふべく、五十錢以上の利喰は中相場、其以下は小相場と云ふ事が出来る。然るに凡そ小相場で利を得やうとするのは危険が多いので眞の相場道は小相場の鞘取主義にあるのではない。

併し小資金にて勢ひ小相場にて利を占めねばならぬ境界のものは、先づ通ひ相場の範圍を豫定して、小底を買ひ小天井を賣るやうに心掛く可く、決して中程に於て賣買してはならぬ。その小底も小天井も見定めぬ場合は、暫らく賣買を見合せて上げ足若くは下げ足の附くを待

ち、その初日二日は概してその足に従つて賣買して好い。その通ひ相場が凡そ四五十銭の往來相場であれば十丁乃至二十丁の利益を占める事は容易である。

◆要綱の三

高値相場より二三十銭方の通ひ相場を表はしつゝ、悠々と低落して、圓以上も下り人氣一般に軟弱に傾むき、場面は總賣りの有様となり、俄然氣崩れ相場を生じて、案外な安値を出した場合には、果斷決行、思ひ切つて買ふ可しである。此場合の低落は所謂底附運動で、將に昂騰せんとする前提なのであるから、假令此底値は大底ならずとするも中底を外れぬ事は確かなのである。

◆要綱の四

相場が漸次低落し、底値と思しき所にて揉み合ひ、人氣の弱い割には下押せず何となく底堅く見えて而も徐々に上向かんとする氣勢を示した場合は

は人氣の如何に頓着せず、思ひ切つて買ふ可きである。此の場合に俄然だら／＼と下押す事があつても、是は謂所踏占相場であるから、將に昂騰するので、構はず買つてよい。

◆要綱の五

普通の昂騰時の上げ足は最初は短く中程に長く、終りは再び短いのを通例とする。それ故に若し昂騰時の最初に買損ねた場合は、上げ足の附いた時に、此上り相場の前半位と思はるゝ範圍内を買つてよいが、その後半程と思はるゝ範圍では決して買つてはならない。

◆要綱の六

昂騰相場に長き上げ足のあつた後は結局上るべき相場にても、一時淀み相場を示し、稍もすれば、下り勾配になる事がある。殊に大相場にては、兩三日後淀み相場を示しつゝ、再び昂騰するもので、相場師の技倆は此處に

表す事が出来るのである、研究の積まぬ凡庸相場師は此處に氣迷ひを生じて少波瀾に過られる。

◆要綱の七

昂騰相場が上り詰て最早その頂上と思はるゝ場合に、案外人氣沸騰し、弱氣は煎出し、強氣は益々買募り、場面殆んど總買の有様を呈して思ひの外相場を表す事がある。併し此の場合勢ひに乗じて買進まずに寧ろ斷然賣向ふ可きである。此は恰も燈火滅せんとしてその明を増といふ如き状態で、勢力一轉の折柄なのであるから、賣方となつて大利を得んとする者は此の機會を見逸してはならない。

◆要綱の八

高低何れにも新値を表して進む場合は探り／＼進行するもので、途中に多少の淀み腰掛相場を表すのであるが、此の淀み相場に迷はされて買買を

過る者が多いから、大勢に着眼して此點を注意せねばならぬ。

以上は、相場高低を觀測する用意の一端を示したもので、期米研究に於ては所謂九牛の一毛に過ぎない。此外に「保合」「飛び放れ」「暴騰暴落」「天井及び底値」「人氣」等に就いて多岐多端燃犀深刻なる觀測を必要とするのであるが、吾人と雖も自家研究の結果を悉く發表するとせば本書全部十數號にも亘らねばならぬので、茲には致富貨殖の常識といふ範圍内に於て講述を止めておく外は無いのである。而して本講義の結論として是非とも述べねばならぬ事は、

◆期米賣買の萬全策は如何にせば宜きか

こいふ主要點である、「知らざるを知らずとせよ是れ知れるなり」とは聖賢の訓言であるが、これは相場道にも移して箴諷と爲す可きで、凡る相場は原因結果が整然と表はれて來るものではない。故に相場觀測が百發百中

▽期米賣
買の萬
全策は
如何に
せば宜
きか

であると誇稱して或は傳授料とか通信豫言とか、非利を貪り相場のごときは掌を指すが如く知つた振をして居る輩の如きは、所謂「知らざるを知らずとせぬ」者であつて、吾人はこれを憫笑するものである。相場は決して徹頭徹尾悉く豫測し得べきものでなく悉く豫測し得られないからこゝろ相場の本領であり相場の妙味が愈々深いのである。

されば期米相場に十分の力を注ぎ、而も猶且つ相場の本領を自覺して慎重熟慮して行ふ者には、期米賣買の最も安全なる道が坦々として開かれるのである。

然らばその安全の道は何かといへば、資金の使ひ方と仕掛けの用意で、資本を巧に使ふ者は賣買を上手にするので、多年相場に研究を積んだ所謂老練は皆上手に資金を使つてゐる。つまり自己の資本に應じて徐々に出資し、終局の趨勢を窺つて着々と歩を進め、一時に手一抔の資本を投じて賣

買するやうな危険な遣り方はしない。之に反して資金の使ひ方の下手な者は、資金に餘裕を残す事を忘れて盲目滅法に資金を投じ、相場の上下する度に狼狽痛心するばかりで、一朝失敗した暁には、忽ち資本に窮し好機逸す可からざる時に際しても、機先を制する術無く、賣買轉倒の悲惨な醜態を暴露し、天井又は底値で餘義無く手仕舞せねばならぬ事が往々ある。

故に期米賣買に於て適當にして安全なる資本の使ひ方は、勿論賣買の巧拙にも依るが、いつも八分目にして餘裕を存して置く事である。次ぎに仕掛は決して急かず、心中綽々として機會を狙ひ定め、確信を得て初めて猛然と仕掛可きで、少しでも自己の腑に落ぬ點があれば、悠々と考察して徐々に機會を待たねばならぬ。古來相場道の金科玉條として居る『三猿金泉録』に、

賣買はせけばせくほど損をする

とんと休んで手を換て見よ

唯せくなせく商内に徳は無し

五分安を買五分高を賣れ

とあるが、眞理は今古を通じて變らず古くて而も常に新しい。

因に『貨殖新聞』第三號及び第五號は、期米研究の臨時號として發行しましたので、讀者は參考に一讀ありたし。

【九】株式賣買法

前章に、期米の研究を説述しましたが、いふ迄も無く期米も株式賣買も政府の公許して居る投機取引であつて、一つは米穀取引所、一つは株式取引所の名稱を異にして居るのみで、投機取引の性質からいへば二者全く同じものである。故に『期米研究』に於て述べた投機取引に關する説明は此の株式賣買の上にも全然當てはまるものであるから、投機取引の緒論ともいふ可き夫等の説明は重複に亘るから總て省略いたします。借、株式の賣買には、

◆現物賣買と定期賣買

どの二つの方法があるので、先づ現物賣買からお話して見ると、これは株式の現物を賣買するのであるから、他の物品の賣買と少しも變つた事は無

▽現物賣
買と定
期

く造作もないのである。株券は株式仲買店でも現物問屋でも賣買取引をするから、夫等の店に直接行くなり又は電話なり端書なりで望みの株券を注文するとか賣拂ふ交渉をすれば夫々取引が出来る。そして買った株券なら自分で會社へ持つて行つて名義を書換へて來てもよし、又自分の委任状をつけて株式商店の店員を書換へさせにやつても好い。地方の人なら代金と委任状を送つて株券を注文すれば、取扱店で名義書換までチャンとした上で郵送して呉れるのである。

只此場合注意すべき事は、株を買ふ時に賣買の多い株だ何でも無いが賣買の少い株を買はうと思ふ時、二軒へも三軒へも注文してはいけない。二軒へも三軒へも注文すると其の株屋では同時に株の賣手を探し初め自分一人で買ふ株が三人も四人も買ひ集めるやうに市場では見わるから、そんなに買手の多いなら何か其會社に好い事でもあるのかも知れぬと急に値段

が上つて高い株券を買ふ事になる。又賣る場合には之と反對で、二軒へも三軒へも賣り方を依頼すると、其等の仲買店では何れも市場に買ひ手を探すから株券の價は見る／＼内に下つて來て、安い値段で賣らねばならぬ結果になります。故に株券を賣る場合も買ふ場合も、賣買を頼む仲買店は只一軒に限るのである。

次ぎに株式の定期賣買であるが、これは期米賣買と同理で資金の運用に最も妙を極めたもので資産家の放資に適當なるばかりで無く、小資産の者が大資産家たらんとするに於ても亦最も便宜な致富の捷徑といつても好いそれは定期賣買は手附金(證據金)だけで大きな商内が出来るので一定の金が十倍二十倍乃至數十倍の働きをするからである。

現物賣買は前述の如く簡單に出来るのであるが、定期賣買は掛引を要し種々複雑な關係によつて、利害損益が分れるのであるから、吾人は前章「期

米の研究』に於て「研究に行き止りは無い」といつた如く「株式賣買」に於ても亦同じくその研究に行き止りは無いのである。そして賣買方法に就いても期米と殆んど大同小異であるが、貨殖の常識涵養といふ本書の目的から一應。

◆株式賣買の要綱

を述べて置かう。既に定期賣買であるから期限を定めて株券の受渡しをするといふ約束で賣買をするので、期限は期米と同じく、本月限、來月限、來々月限の三期に分け「當」、「中」、「先」と區別してその約束の月末に現物の受渡しをする譯になるのであるが、その期限になつても是非とも現物の受渡しをしなければならぬといふ事は無い。即ち限月になつても自分の思惑通り値が出て來ぬとか、また先に見込があるといふやうな場合には次ぎくど先の限月に乗替へて行く事が出来るので、これも期米と同様である

其他相場が高くなる見込の場合は「買建」をし、安くなると見込んで「賣建」をする、「轉賣」、「買戻」其他注文の仕方等は何れも「期米の研究」に講述した所を適用すれば好いので「市場用語」の如きも期米と同様であるから、重複を避けて茲には一切省略する事にする。但し株の證據金は期米の如き一種に止まるもので無く、株の種類によつて違ふので、これは仲買店に照會すればその時々々の相場表を送つて來る。又賣買の株数は十株以上で十株に満たぬ端數を着ける事は出來無い、即ち十株から二十株、三十株、四十、五十といふ風に十株を單位としていくからでも賣買が出来るのである。

それから賣買の出來る株も時々規定されて居つて、これを仲買店に照會すれば現在賣買の成立する株券の種類と證據金表を取寄せる事が出来る。又株式の相場は一日に本場(前場)は午前九時から、後場は午後一時から前

後場二度の立會で、これは期米が一日十六回の立會があるのと相違してゐる點である。そこで賣買取引の順序を解り易く説明するために、

◆株式賣買の實例

を示してみやう。これは勿論極めて初心者に對する平易な解釋を主とするために、例を作つて述べるので、先づ賣買取引の頻繁な株に就いて二三例を擧げるのである。

一、東京株式取引所新株を買ふ例。

今東京株式取引所の新株式が自分には將來騰貴の見込があると思ひ先限の相場が一株百三十五圓である時に、此を十株だけ買ひ注文を發する。此場合に證據金を送らねばならぬが假りに一株十圓であるとすれば十株に對する證據金百圓を仲買店に送り「何月限東新株十株百三十五圓で買へ」と注文すれば好い。(指値注文「期米研究」參照)すると仲買店ではその指値が

市場で出れば、買調へましたと報告する。所がその以後の相場が順好く行つて百四十圓臺を越して翌月になつて百四十五圓に騰貴したとする。先づ此邊が見切り時だなど考へたならば、仲買店へ一應手仕舞をせよと命ずると仲買店ではその通り手仕舞の取計らひをして、一株の値合十圓十株に對する百圓、そのうちから仲買人の手数料金五圓を差引いて九十五圓の純益と前に預けて置いた證據金を添へて送金して來るのである。

二、日本郵船株を買ひ期月に至り乗替を爲す例

日本郵船株の前途に望みを囑し、當月限を三十株買注文をしやうとする所が前例の如く指値をせず明日なら明日、又何日なら何日の前場の寄附或は後場の大引といふやうに相場立つ節を示して値段を定めず其日の相場の値段で買ふ事が出来るので、これが成行注文(「期米研究」參照)であるが、この成行注文で注文して、假りに百二十圓で買つたとする。さて當

月限であるからその月の末が期限であるが、一向思惑通りに相場が上らぬ場合、來月か來々月にもなれば是非上るに違ひ無いと見込がついたとすれば、此時には何月限のものに乗替へせよと即ち長い期限のものに乗替へる注文を發するのである。すると仲買店では一時その時の相場で決算を済まして直に同日同時に先期のものに買玉を繼續して置く。ところでその以後に見込み通り騰貴して例へば百三十圓になり、此邊で見切りをつけやうと手仕舞を命じてやると、仲買店は早速轉賣して差引計算をして送金して來る事となる。此の乗替をする場合はいくらもあつて、例へば豫期の如く相場が變動して來て其勢ひで限月内に止まらず、先期月までも押して行くこと見た時には之を追及して一舉に大利益を占める。或は期日に迫り現物の受渡しを欲せざる時等賣買共に之の乗替を應用して變轉極まり無き運用の妙を盡す事が出来るので、定期賣買の妙味は全く此邊に存するのである。

三、東京電燈株を買建し現物を引取りたる時の例

時價假りに七十一圓といふ時、之を買はんと欲し先物三十株の注文を發したりとする。東京電燈株の證據金一株三圓として三十株に對する九十圓を送る、但證據金は現金のみに限らず他に該取引所で賣買して居る有價證券を持つて居るならば時價の七掛か八掛位で代用證券として證據金の代りに用ふる事が出来るのは『期米研究』に於ても吾人の述べた所であつた。さて相場が見込外れで追々下落して來て七十圓となる、此場合は一圓の損であるからまだ證據金の追加をせずとも好いが、下落が證據金の半分に達した時即ち此の株でいへば六十九圓五十錢以下になつた時は、仲買店からの通知を待つまでもなく不足分だけを更に送らねばならない。それで先づこれを約束期月の末に六十九圓五十錢に下落即ち買付けの値段から一圓五十錢下つて居つたとして、此處で之れを手仕舞してしまふならば、一株一

圓五十錢三十株で四十五圓の損失となるのであるが、資金の豊富なる場合には期月に至り現物を引取つてしまふ事にする七十一圓で買建たのだから三十株代金二千百卅圓を送つて東京電燈株を三十株受取るのである。そして他日の騰貴を待つて再び賣却して利益を収める事も出来るし、又之れを持つて居れば會社の株主として利益配當を受くるのであるから銀行利子位で甘んずる人で資金さへ豊富であれば、これが一番安全な方法で、此點に注意して進んで行けば餘程好い利廻りになり損失をする事は絶対に無いといつて好いのである。

四、鐘ヶ淵紡績株を賣りて利喰したる時の例

假に鐘紡株は目下非常の盛況で價格も騰貴の頂上なる様に思はれるが、一方棉花の下落とか其他の事情でこれが下落を餘儀無くされるであらうと見込んだ時、百株の賣注文を發したとする。これも指値注文で假に百十八

圓ならば百株だけ何月限のものを賣れと仲買店に命ずると、仲買店では早速買手を求めて賣約束を整へる、其後限月迄にだん／＼下落して來て遂に百十圓迄下つた、見切時は此處だと手仕舞を云つてやると、即ち買戻しに依つて手仕舞し仲買店は利益金八百圓(此内より手数料を引き)に證據金を添へて送附して來るので之が賣りを利喰した例である。

右の外現物を自分で所有してゐる場合即ち手持株を以て市場に賣り繋ぐ等の例もあるが、先づ以上の賣買例で、大略株式賣買の手續順序等は諒解された事と思ふ。又此の外に「鞘取り」といつて最も安全に利殖を圖る事の出来る賣買法があるから、此の

◆安全確實なる鞘取り賣買法

を少しく説明する事にする。鞘取り賣買には資金を多く要するけれどもその代り決して損失をする事無く、必ず利益を得られるので、株式賣買中

「損見すの得取り、百發百中、最も安全確實なる遣り方で、此の方法で巨萬の富を作つた人は非常に多いのである。

今その概要を説明して見ると、某月に於ける某株の相場が、

當月限	七十一圓二十錢
中月限	七十一圓九十錢
先月限	七十二圓九十錢

であるとして、此の『當』と『先』との間には一株に就て一圓七十錢のヒラキがある、これは金利等の關係上先物の方が高いのは當然で、順調の相場とせねばならぬ。そして此のヒラキを鞘といひ、鞘取りとは此の差額によつて利益を得る事なのである。

然らば鞘取りはさうすれば好いかといふに、當月限を前記の相場の場合に十株買建をして同時に先月限に向つて同じく十株だけ賣付け約束をして

置くのである、そしてその月の末に七百十二圓を以て現株を引取つて仕舞ふ。かうなると二ヶ月後の月末に、先月限の相場は前記の如く一株七十二圓九十錢であるから、七百十二圓で買つた株を七百二十九圓の金を取つて現株を賣渡して仕舞ふので、買と同時に賣付けの約束をしてあるから、其期限にさへなれば、賣付當時の値段の金は間違無く這入つて来る。即ち七百十二圓の金で十七圓の利益が二ヶ月後に取れるのだから、此内仲買人の手数料、賣買兩方合計で五圓四十錢として、手取金十一圓六十錢の純益になるから、二ヶ月に割付けると日歩二錢七厘強に當り、年利に直せば九分九厘即ち約一割の利廻りになる。

今日定期預金をしても四分の利子、公債を買つても五分には廻り難い、又一割三分も配當ある比較的割の好い株を探しても時價七十圓位で買へば八分八厘位にしか當らないのであるから、公債などを買ふよりも遙に利廻

りが好くそして確實なのである。此鞘取りには危険といふ事を絶対に伴つて居らず、賣買上の利益がチャンと計算されてあつて、金になる時期も確然と定まつて居るのであるから、資金の豊富な人は、銀行に預金して置く如き迂濶な事をせず、此の直鞘といふ事に注意をして利殖法を講ずる事が、非常に割が好いのである。要するに當月の安いものを買つて先月の高いものを賣建して置く、かうすれば假令相場に變動があつても二ヶ月後の期限には賣買差額の利益は確實に這入つて來るので、最も安全に最も確實に利益は既定されて居り決して損の仕様の無い方法なのである。

而も以上の例は、利廻りが日歩二錢七厘につき場合を假に示したのであるが、鞘のヒラキが多いほどその差額の利得が多いわけで、或は三錢日歩にも四錢日歩にも、それ以上にも上る場合があるから従つて銀行から金を借り出して此の鞘取りをしても銀行利子を支拂つて尙優に利益を見る事が

出來るのである。前例の場合などは株式相場に決して珍らしいものではないが、それでさへ銀行へ二錢の日歩を支拂つて鞘取りをしたとしても、尙ほ七厘といふものは利益を得られる譯である。

尤も鞘取りは鞘の少ない場合には勿論、又同鞘といつて鞘が無くても出來ないし逆鞘と稱して限月の近いものが高く、先物の安い場合には鞘取りに適しないのはいふまでも無いので、つまり當月より先月が高い時に仕掛ければ好いのである。本紙第一號に掲載した債券の鞘取法も亦同様である。尙ほ此の鞘取り利殖法に就いては、苟くも致富殖に於て適當なる方法のある場合に之を活用する事は吾人の主義とするところであるから、近く本紙上に於いて、鞘取り法を最も詳細明瞭に説明し且つ資本に豊富なる富豪階級にのみ其の安全致富法の壟斷に委せず、吾人殖殖主義獨特の妙案によつて、比較的少資本を以て大利を得る方法を具體的に發表する都合で

▽賣掛引の要領

あるから本紙愛讀者諸君は須からく刮目して待たれたい、それで此事は讀者の、お楽しみとして豫約して置き、以上は主として賣買方法を述べたのであるから順序として次に一般株式定期に就き

◆賣買掛引の要領

を講述し更に進んで賣買の秘訣を解説して行く事にする。併し豫めお断りして置くが株式賣買も吾人が曩に講じた期米賣買も前述の通り投機取引であるからその賣買掛引の要領といつても殆んど彼此同一轍に出づるので本講義を讀む者は併せて本書中既記の『期米の研究』を讀まれて、比較研究されたいのである。蓋し賣買掛引の要領は、第一相場高低の觀測、第二仕掛手仕舞の仕方、第三資金の使ひ方等であつて、『期米研究』に於て述べた夫等の要訣は、又移して株式賣買に適用する事が出来るからである。それで第一に相場の高低については

▽好材料と悪材料

◆好材料と悪材料

とがあつて、株の高くなるべき材料を好材料といひ、株の安くなる材料を悪材料といふのであるが、株式の好材料を一口にいへば何でも日本國內に金が潤澤になる事で、悪材料といへばその反對に金が全國に少くなるか又株を買よりも他に割の好い投資物が表れた場合である。

併し材料といふものは普く人に知れ渡つて了つては何にもならぬもので人の知らぬうちに材料を集めねばならない。そして材料が最も早く知れるのは、一般的材料ならば政府筋の人が一番早く解り特殊材料などは其會社の重役が一番早く知る譯で、其等の人好材料ならば買つて來る、故に賣買の仕手に就ては大いに注目せねばならないが、何時も政商筋や會社筋にのみ甘い汁を吸はれて、一般の人は多くの場合儲け損つて了ふ事が多い、それならば一般人には、とても株で儲ける事は出来ないかといふに、

▽此處に
面白い
賣買の
秘訣が

◆此處に面白い賣買の秘訣が

一つある。元來、材料といふものは實質以上に相場に響くものであるから、好材料で上つた株は又た必ず一時下落するものであり、悪材料で下つた株はこれも又た必ず一時恢復するもので、これを相場の反動といふのであるが、これに注意しないと相場を追ひかけて高い者を掴み安い所で突込んで賣り結局損をする事になる。それで材料に恐ろしい苦心をせずとも之の相場の反動を利用する事は又た一つの面白い賣買の秘訣で彼材料を最も早く知る人と同じやうに利益を得る事が出来るのである。

それはごういふ方法かといへば相場界でワナをかけるといつて居る一種の指値注文をする事で、例へば今此處に東新株百四十圓の場合に、百五十圓賣りとか百三十圓買ひとか指値注文を發する。さうすると例の材料を最も早く知る立場に居る政商筋、又は會社筋とかいふ連中は彼等が逸早くも

知つた獨特の料子によつて賣つて来るなり、買進んで来る場合に好材料なれば相場は上つて百五十圓の指値が出来し、悪材料ならば相場が下つて百三十圓の指値が出来る。指値が出来れば仲買店からは賣買の調つた通知をして来るから、此通知に接すると同時に折返して、百三十圓で買つたのなら百三十五圓轉賣、百五十圓で買つたのなら百四十五圓買戻しといふ風に、更に二回目の指値で手仕舞利喰の注文を出して置く。恚うして置けば前に云つた反動は必ず表れるものであるから、その反動を利用して利益を得る事が出来るのである、偕、これは一例を擧げて掛引の要訣を示した迄であるが、更に

◆賣買仕掛の場合

に注意せねばならぬのは左に述ぶる四個の要點である。それは材料、採算、人氣、足取(野線)の四つでその一つを缺いても定期賣買によつて利益

を得る事は難く多くは失敗の悲運に終らねばならぬ。

第一の材料に就いては前述の如くであるが、第二は採算で、将来の株價を豫想して見出すのであるが、これは拂込金へ配當率を掛け、値段で割れば利廻りが出る、即ち、

(拂込金×配當率)÷値段=利廻り

で、例へば第四銀行の株が拂込金百圓配當率一割、時價百四十一圓五十錢であれば、

$$(100 \times 0.1) \div 141.50 = 0.709$$

で利廻りは七分九毛といふ事が解る、又たこの利廻りが六分になつても買ひ手があるに相違無いとしたら、其株は何程までに上るものかといふ事を知りたい時は拂込金に配當率を掛けこれを利廻り六分で割れば好いのである。即ち

(拂込金+配當率)÷利廻り=豫想値段

$$(100 \times 0.1) \div 0.6 = 166.66$$

となつて一株百六十六圓六十六錢迄は上る見込がたつのである。斯くの如き採算は何時でも十露盤がとれる様に練習して置く必要がある。

次は人氣で、人氣に對する要點は人氣の出初めには人氣に従つて賣買し人氣沸騰すればこれに逆抗して好いので、逆抗するといふのは期米に於て『金泉録』に

野も山も皆一面に弱氣なら

阿呆になつて米を買ふ可し

と本間宗久翁が道破してゐると同じく株に於ても此場合は、『阿呆になつて株を買ふ可し』といふ事が出来るので、又或場合は之の反對に野も山も皆一面に強氣なら

阿呆になつて株を賣る可し

である。要するに人氣の出初めと沸騰とに能く注意して之を見分け、誤らぬやうにせねばならない。

次に足取り即ち野線に由る観測も重要な参考材料とせねばならぬのであるがこれは前にも斷つたやうに『期米の研究』と重複するから茲には省略する。それで以上四個の要件が具備しなければ、定期賣買の利得を確實に豫想する事が出来ないので、そんなに總ての要件が都合好く揃ふ場合は減多にあるもので無く、それでは相場をする機會は年に三四回もあるまいといふ人があるかも知れぬが、事實その通りで、確かに見込の中する機會は減多にあるものでない、高々相場は一年に三度もやれば好いのである否、假令一回でも好い確實に資金を幾倍にもする好機會が年に一回でもあれば、これを累年計算して見れば百圓の資金が十年度には十萬圓にもそれ

▽資金の
使ひ分
けに安
全定期
の秘訣

以上にもなるわけで定期賣買成功の鍵は、決して焦らず急がず、悠々と相場を見定めてかゝる所に在るのである、これは期米研究にも繰返して注意して置いた點で以上の四要件を具備し、最も完全な相場の観測を定めてかゝるのが、相場必勝の本義で、これは所謂石橋を金槌で叩いて渡る安全策であるが、又一つには

◆資金の使ひ分けに安全定期の秘訣

がある。その方法は資金を一時に投下せずに自分の持つて居る資金を幾つにも分けて置いて、幾度にも投下する方法で、例へば假りに二千圓位の資金を持つて株式相場を試みやうとする場合に、先づ資金の三分の二は必ず豫備費として他日の再舉を圖る第二の資金として保存して置き残りの三分の一即ち六七百圓を以つて第一の活動を試みる事にする。そして此の六百圓を

金百圓 第一資金
 金二百圓 第二豫備金
 金三百圓 第三豫備金

合計金六百圓

右の如く分類して、例へば新鐘紡株が九十五圓の場合に九十一圓十株買の指値注文を發する、(前々項面白い賣買の秘訣参照)ところが一般に株が下つて新鐘紡も亦九十一圓になつたとすれば、そこで所謂「ワナ」にかゝつたので、第一資金の中から八十圓の證據金を入れて二十株の買附が出来る。それが上つて高くなれば何の苦も無く儲けて轉賣手仕舞すれば好いのであるが、若し更に下つた場合はどうするかといふに、九十一圓で買つたものが九十圓になつても未だ平氣で好いが八十九圓になると、買値より本證據金の半分即ち二圓下つたので追證據金二圓二十株で四十圓を要し、こ

れは第二資金で支出するのである。

然るに更に下つた八十八圓、八十七圓になると又追證四十圓を要する。此處で買値よりも四圓だけ即ち本證據金だけ下つたのであるから大變に安いものになつた、そこで今度は三十株だけ買ひ足す事にして、此の證據金百二十圓、追證と共に百六十圓要る。これを豫備金から支出する。これで上れば轉賣して利喰ひが出来るが、若し更に下つて八十六圓、八十五圓となると、初めの二十株の追證四十圓、次の二十株の追證六十圓、合計百圓で百六十圓の第二豫備金は全部出拂つたてまだ不足を告げる事になつた。

更に又下つて八十四圓、八十三圓となると又追證六十圓を要するが、此處らで又も四十株を買ひ足して、本證據金百六十圓を入れる。それが更に八十二圓、八十一圓と下れば追證合計百四十圓を要するので、第三豫備金

も殆んど全部支出して仕舞ふ事になる。

それでも未だ下つて八十圓になつてもまだ追證は入らぬのであるが、右のやうに初め九十五圓から八十圓まで十五圓といふもの棒下げになつてゐるわけで、こんな下落は決して滅多にあるべきものではない、それでこんなに下らぬうちに反動で上つて行くものであるから、以上の資金全部を支出する場合は殆んど無いといつて好い。若しもさういふ下落をする場合は一圓二圓と順に下げずに五圓七圓と大暴落をしては又た少し引返し、次ぎに六圓八圓と又大暴落をするものでさういふ場合も以上資金の使ひ分けで二十圓の大暴落にも間に合ふのである。

儲、第一資金第二豫備金第三豫備金で買付けた新鐘合計七十株で、その平均株價は、

$$[(91 \times 10) + (87 \times 20) + (83 \times 40)] \div 70 = 85.30 \text{ 圓}$$

即ち一株の平均八十五圓三十錢弱であるから、若し九十五圓で買った人から見れば、十圓程安いものを買つたわけである。それで平均八十五圓三十錢であるから八十六圓で賣れば手数料を引いても少し儲かり、又元の九十五圓に引返せば手数料を引いて六百五十四圓十錢の純益が得られる。右の方法をナンピン買といふのであるがこれは見込違ひの時で若し高くなればその反對に利乗せの手段を用ひ買増して行くから巨大の利益となる其他乗換、ドデン、兩建等の方法に就ては何れも前章「期米の研究」の中に説明してあるから参照して貰ひたい。

第二家庭副業編

【一】養鶏

家庭の副業として養鶏は適當なるもの、一つであること、今更らいうまでもありません。それで養鶏に關しては、種々の出版物があつて、之を試みやうとする人に、今日は非常に便宜な時代であります。既に本社の『貨殖新聞』にも

▽七圓から二千圓に利殖した家庭副業養鶏の實驗……………(第十三號)

▽鶏卵仲買の利殖實驗……………(第十四號)

▽鶏卵貯藏法……………(第廿三號)

▽鶏卵雌雄鑑別法……………(第廿五號)

▽養鶏の實驗……………(第三十號)

等、その他毎號養鶏の實驗につき各方面から種々の記事を網羅して居りますので、それらの再録を省き、茲には一般に必要な養鶏の實用的注意を擧げる事にいたしました。

養鶏の目的は、鶏そのものを食用に供することもその一つであります。

▽季節に
より多
産せぬ
理由は
ない

先づ第一に鶏卵を獲ることが主たるもので、従つて養鶏家は如何にして多産せしむべきかについて最も苦心するのであります。

昔から寒玉子とか土用玉子とかいつて、その何れも珍重し、特殊の効能があるやうに認められて居りますが、それはその季節に鶏が多産せぬ關係が第一になつて居るのです。尤も土用玉子の珍重されるのは、此時候には魚肉、鳥肉、獸肉など何れも腐敗し易く又中毒の虞れがあります。新鮮の土用玉子ならばさういふ憂ひは無く、その上薬用になつて下痢止めを用を爲すといふことであります。然るに土用中、又は嚴寒中には多産しないのは、我邦で昔から經驗され、養鶏家は此の季節には多産しないものと諦めて、不思議にも思つて居らないらしい。

所が、例を土用玉子にとつてみると、土用中は彼等の體質が産卵に適しないのであらうかといふに、決してさうではない。最も多産種と云はるゝ

系統が、何れも地中海沿岸の鶏であるのを見ても、熱帯地方の鶏は多産するのであります。又た野鳥は春期に産卵し孵化するこれは秋期早くも成鳥となつて、來るべき寒氣に堪へしめるやうに自然が教へたので、若しその春期の産卵を少しづつ奪ひ去ると彼等は定數に達するまで産まうとして、盛夏中に至るも産卵を止めないのを見ても解るので、兎に角盛夏中に産卵を減ずる理由は少しも無いのであります。

鶏の體温は攝氏四十一度半乃至四十二度位で、吾々人間も體温は攝氏三十七度といふ事になつて居る。今これを華氏に換算すれば攝氏三十七度は華氏九十八度六で、攝氏四十一度半乃至四十二度は華氏百六度七乃至百〇七度六に當るのであります。して見れば盛夏中の温度が華氏九十四度にも上れば、人間はその暑さに苦しむけれど、鶏はまだ平氣の平左で砂浴をしてゐるくらゐ、そして發情も此場合は極度に達して居ります。

然るに事實は之に反して多産しないものとすれば、そこに何等が原因かなければならない。そしてその原因は何であるかといふに、これは雷り土用玉子に限らず、一般養鶏の上に等閑に附する事の出來ぬもので、

第一は鶏舎の不完全であること、

第二は害蟲や病毒驅除の不完全

第三は飼料の問題

右の三者に基因するので、これが何れも完全であれば、勿論多産するに極つて居り、どうしても卵を産ますにはゐられないのであります。

◆鶏舎は如何すれば良いか

そこで第一に鶏舎であります、これは舍内を廣く、天井を高くとり、屋根は草葺か又は瓦荒が最も良い。そして鶏舎の周圍には風通しの妨げとならぬ程度に樹木を植ゑ、その樹木も落葉樹がよく、落葉樹なれば冬は葉

が落ちて鶏舎内に光線が十分にはいり、夏は葉が茂つて日陰を作るから、
鶏が嘴を開き翼を張つて喘ぎ苦しむやうな事はない、鶏舎が不完全で
あると、日中喘ぎ苦しむばかりでなく夜間も同じく苦しむ通すことが多い。
此場合に夜間も鶏舎の窓を開いて置くと、大なる弊害を醸すもので、暑氣
厳しい夜は十時頃まで開放して置くがよいが、それ以上うつちやつておい
てはならない。但し夜間でも鶏舎の換氣は十分よくして置く必要がありま
す。朝早く鶏舎の戸を開く時、中から生温くて紛々嘔吐を催すやうな空氣
が流れ出るやうではいけない。

さういふ不良の空氣が充滿してゐる鶏舎にゐる鶏群は、何れも酒にでも
酔つてゐるやうに昏睡を貪り、朝の清く涼しい大氣が舎内に行き渡ると初
めて心地好げに覺めて來るもので、此時に健康なものはこれに耐へ得るけ
れども、虚弱なものや脂肪で肥れたものは之に耐へ得られず、遂に斃れる

▽害蟲病
毒を防
ぐには
どうす
ればよ
いか

ものであります。夏期の夜中死亡する鶏の多いのは、全く以上の理由から
で、さういふ風に鶏が多く死亡する位であるから、いくら健康な鶏でも障
害を受けぬものはないわけでありませう。

それから土間はよく乾燥するやうに、そして少しも悪臭を發生せぬ様特
に注意せねばならない。日中は土中からのぼる悪氣が直ちに舎外に散じて
了ふから障害の憂ひはないけれども、夜間は鶏舎内に籠つて大なる障害を
與へるのであります。

◆害蟲病毒を防ぐにはどうすればよいか

夏は害蟲病毒の發生に都合のよいことは今更いふまでもない事で、夏の
みには限らずいつでもこれを發生させてはならない。鶏が虱に整されると
その痛みに苦しむばかりでなく、最も大切な血を吸ひとられ、夏などはそ
れでなくてさへ兎角食が進まず従つて榮養分攝取の量が少いのに、血を吸

ひとられてはたまらないから、その産卵せぬやうになるも無理はありません。只、羽蟲や蚊や、蚤虱に攻められて、さぞうるさいだらうぐらゐに思つてゐては駄目です、況んや今日の人々はその位だけの思ひやりもないのではなからうか。

それで此場合先づ羽蟲の大驅除をやらねばならない。それには店に販賣してゐる驅蟲劑を買ふよりも、除蟲菊で精製した、まじり無しの粉を用ひるがよい。その粉を障子張用の刷毛に含まして、鶏の全身に羽毛に逆つて挿し込んでやる、頭や顎下などには特に注意して多く振りかけてやる、そしてこれは必ず夜間にするがよい。

併し鶏を騒がせぬやうに静かに一羽づつ捉へて別々にやる。かうして三四日目毎に行つて、四五回もやれば全滅せしむることが出来ます。その上毎夜除蟲菊粉を一二尺の大きさの板の上のせて團扇で煽いで、鶏群の眠

れる上に振りかければ諸種の害蟲をも防ぐ事が出来ます。

それから夏期蚊の多いところでは、夕刻から蚊遣を炊いて蚊を逐つてやる事も必要の一つであります。次ぎに棲架に注意せねならない棲架は交代に用ひるやうにしてやるか、さもなければ二三日目毎に取り外づして庭に火を焚き、その上で十分に熱すると、害蟲も害蟲の卵も死んで了ふから、これほど完全な驅除法はない。此時に注意すべきは、棲架を取り外したり、持ち運ぶときは、害蟲等をボロ／＼と途中で落ち、そして逃げ出すから之を見逸してはならない。

次ぎには壁や板の破れ目などにも害蟲が巢を作つてゐるので、これには除蟲菊と石油の製劑を噴霧器などで注入してやればよい。そして棲架の脚には此藥を布片に浸して巻きつけておく、かうしておけば害蟲の夜間襲來を幾分にも防ぐ事が出来ます。

次ぎに白癬も、脚癬などを全治せしめねばならない。之には種油か、豚の油などを二三日おきに五六回塗つてやれば大抵治り、水銀軟膏ならば一層効能があります。

それから病菌であるが、これはいつでも鶏の元氣の衰へぬやうに、健康にしておけば憂ふことはないが、只、外から病毒を持ち込まぬやうに用心せねばならない。例へば外來の人に對しても、履物を取りかへていないければ、鶏舎内に入れぬやうにするなど、細心の注意が必要です。

萬一、傳染病が発生したら、決して姑息的な方法をとらずに、舎内、器具等のすべてを完全に消毒しなければなりません。又た平素から豫防上の注意が肝要で、他から新たに買ひ入れた鶏は、一週間乃至十日間ぐらゐは隔離して、病毒の有無を確かめた上でなければ他の鶏群と一緒にしてはならない。

▽飼料は
どうす
ればよ
いか

◆飼料はどうすればよいか

第三が飼料問題であります。殊に夏の間の如きは、兎角食の進まぬものであるから、なるべくおいしく喰べさせる工夫が必要で、此の飼料を美味に食はせるといふことに注意しないと、他のすべての苦心が水泡に歸する事となる。

それから、只、旨く作つてやつてからとてそれだけで油断をしてはならない。旨く作つてやつたと思つても、餌器の不潔なため腐敗を早めることもあり、食ひ残しは忽ち腐敗するからこれを食ふと鶏は發病しないまでも急に食慾が進まなくなり、さうなると總てに影響して先づ第一に産卵を減じ、次いで休む事になります。

それで、餌器は餌を與ふる都度綺麗に洗つて用ゐなければならず、残つた餌がまた腐敗せぬからといつて、その上に添へ加へてはいけない。添へ

加へると、前に残つた餌は急に腐敗を初め、そして忽ち全部を腐敗せしむるからであります。此場合に残つてゐるのを棄てるわけにも行くまいから、清潔に洗つて餌器に新しい餌を入れ、その上へ残つた餌を薄くひろげて與へる。するとこの上の餌から食ふので、無駄にならないで済むわけであります、これらは如何に些細な事のやうでありますか、かうした些細なことにも注意しなくては、理想的に養鶏に成功する事は出来ない、また慣れるに連れてさういふ細かに注意に却つて優美な趣味を感じ、楽しみに生活が出来るやうになるものです。

次ぎは調餌の法で、如例にして美味な餌を作るかの問題であります。先づ米糠、麥糠を生のみ、用ひると酸酵し易い憂ひがあるので、これを狐色に焙ります。すると調餌して後ち容易に腐敗せぬばかりで無く、香りがよいので鶏は争ふて食ふ。この狐色に焙るといふ事は、一つの秘訣として

▽調餌の秘訣

養鶏家の尊重するところであります。

そして焙り足らぬも悪いが、焦げつかしてもいかない、それで焙つてゐる間は絶えず攪きませてゐる事。また二三日中に用ひつくすとすれば、乾いた四斗樽か、大箱に入れて蓋をして置くがよく、十日以上も保存するには罐などに入れて密閉しておくがよろしい。出来ることならば、毎日新しく糠を焙るに限ります。それは長くおけばどうしてもいくらか香氣を失ふからで、併し乍ら糠は古くなつてはいけないから、新しいうちに直ぐ焙つて貯へておく方がよい場合もあります。

次ぎに青物を餘計に與へねばなりません、殊に夏期の如きはこれを十分に與へる必要があります。青物の中でアカシヤ樹の葉は最も得易い、そして重寶なものであります。兎に角、青葉を細かく搗き挫いて潰し、之に前の焙り糠に動物質と骨粉とを混和させたものを、その青葉の四分の一か

三分の一くらゐ入れて再び搗き混ぜ、かして軟かな泥状になつたものを與へるのがよい。焙り糠に混ぜる動物質のものは練粕の粉にしたものがよく、尤も腐敗して居らぬものを選びねばならない。その乾燥したものを糠十に對し練粕粉二位を混入し、次に骨粉は一乃至二ぐらゐの割に混ぜるので、これは前以て混入して置いてもよろしい。

此の外養鶏に就いては、或は人工孵化法とか、鶏卵貯藏法とか、少數乃至多數養鶏法とか、種々述ぶべき事は盡きないのでありますが、餘りに専門的に亘る事は本書編纂の趣意でも無く、また小書籍の到低網羅し盡せるものでもありませんので、只、養鶏に關する概略の智識、僅かにその原則とする鶏舎、害蟲病毒驅除、飼料の三者を述べるに止めておく次第であります。

【二】 養 鶏

此一章は、目下我邦養鶏界の一人者と目され、養鶏に就いて十數年間の研究と實驗とを積み、現に宮内省御用達を奉じて居る小田厚太郎氏（東京市外雜司ヶ谷村三四五番地）の發表されました『鶉飼ひに必ず成功する秘訣』その他熟練した養鶏家の經驗談中より摘要を抄録いたしましたので、猶ほ養鶏の實驗に就いては本社（貨殖新聞）第六號、第十號、第十八號等に掲載してありますから篤志の研究家はこれと併せてお讀みを願ひたい。近來養鶏は一種の流行のやうになり、そして副業として養鶏の有利なことは、何れの實驗者も等しく保證するところであります。たゞその飼育法が一般に十分に理解されて居らない爲めに、折角初めても失敗する人の多いのは遺憾至極です。

◆鶉を孵化させる法

そこで、先づ第一に、尊の孵化法から申しますと、元來この鶏を孵化させるに最も好い方法は、確實な種卵を求めて、これを倭鶏に抱かせるのがよろしい。そして抱かせた卵は十七日目には孵化ります。

倭鶏に抱かせる方法は別に難かしい事は無いので、その孵化る當日に巢箱に近づけば、孵化して居る場合は、雛鶏は母鶏の腹の下にビイビイと微かに鳴き、母鶏も亦親しみのある聲で、コ、コ、コと應じて居ります。此時静かに手を母鶏の腹の下に入れて、雛鶏の羽毛が乾いてゐるか、ゐないかを試し、もう乾いて居たならば、これを別に用意しておいた育雛器の中に移します。

若しも雛鶏の羽毛がまた濡れてゐたならば、必ずそのまゝにしておいて母鶏の腹の下から離してはなりません、この乾いてゐないうちに母鶏の腹の下から離すと、雛鶏が弱くなる虞がありますので、必ず羽毛の乾くまで

待たねばなりません。

◆温度の加減が大切

育雛器の温度は、若しその調節を誤ると、折角の雛を殺しますから、この加減は特に注意して誤らぬやうにしなければなりません。そして此の温度は寒暖計で何度といふよりも、自分の手加減で調節した方が寧ろ適切であります。

それは孵化るまでの母鶏の腹の下の温度が標準ですから、まだ抱卵中に、母鶏の腹の下に手を入れてみて、その温度の加減を能く記憶しておき、略これと同様に温めてやればよろしいのです。但し温度に變化があつてはならないから、同じ一定の温度でそれよりも熱くなく寒くなく、温度を持続させねばなりません。

若し強いてこの温度の加減をいひあらはせば、初め育雛器の羽板の下に

▽雛に異常ある場合の手當

手を入れたときは、別に温かいとも感じないが、少し入れてあるうちに、ほのかに温か味を感じて来る程度です。そして温度を調節する時に、心得ておくべきことは、冷やしてもよいから決して温め過ぎない事で、温度が高過ぎると往々雛の死ぬことがあります。

◆雛に異常のある場合の手當

萬一、育雛器のランプの火が消えて、雛が羽板の下にぶる／＼ふるひながら倒れてゐたり、また將に冷死なんばかりになつてゐるやうな場合があります。さういふ異常のある場合に、慌て、強い火で育雛器を温ためたりしてはいけません。さういふ場合は、手早く雛を自分の懐ろに入れて、所謂人肌であたためてやり、靜かに育雛器のランプに火を點けて、普通の温度になつたらば、その中に入れてやります。

此時も必ず普通の温度、即ち母鶏の腹の下で試めした温度といふこと

▽餌に就いての注意

を忘れないやうに、冷れたのだから温ためてやらうと、普通よりも暖かにもすれば、今度はとりかへしがつかなくなります。それから孵化した當日は、育雛器を薄暗い靜かな部屋に置くやうにします。雛鶏が寒がらうからなごと思つて、部屋まで温めたりするやうな事は、こんでもない事で、部屋は春夏秋冬、四時いつでも、人工的に温度の加減をしないやうに注意せねばならない。

◆餌に就いての注意

雛が孵つたならばその日は暗い靜かな部屋に置いて、何も餌をやらぬやうにいたします。そして二日目からは母鶏にやる餌に、茹でた鶏卵の黄身を餌の四分の一ほど混ぜて、よく搗り合せて與へます。

雛鶏は胎糞をもらしてから初めて食欲がつくもので、孵化した當座は卵の中の養分の黄身で、まだお腹の中に残つて居りますから、孵化した當日

ぐらゐは何を與へなくとも餓死するやうな事はありません。それゆゑに食餌について、餘り心配せずにはうつておいて差支ありません。

然るにそれを愛くるしさの餘りに同情し過ぎて、まだ孵化つたばかりに、強いて嘴をわつて餌をやつたりなごする人がありますが、かういふ事は大禁物で、初めて鶉を飼ふ人の失敗は多くはかういふところから來るのであります。そんなことをせずとも、時機が來れば、自然と餌につくもので、ものゝ五時間もたつとコツ／＼と可愛らしい嘴で餌を啄ばむ眞似を初めるものですから、鳥の天然の性に従つて、あまり人間が手を添へないほうがよろしいのです。

世間には強い餌……十分餌と申して、川魚と播餌の糠とを等分にしたもの……を與へると雛の發育が良いといふ人もありますが、それは間違ひで、強い餌をやると翼ばかりのびて身體は一向出來ません、そして翼がのびて

▽鶉を飼ふ眞の秘訣

身體の出來ない雛は大抵は斃れて了ひます。鶉の飼ひ方については、たゞ此の餌のことばかりではなく、世間でいふところは多く間違つてゐるものが多い。鶉を飼養する秘訣だといつて、際立つた方法は大抵がよい加減な出鱈目であります。若し本當に鶉を飼育するのに秘訣といふものがあるとすれば、それは自然に任せて無闇に人工的の手續をかけないといふことでありませう。

なほ、雛でも、親鳥でも、籠の中で騒いでバタバタする事がありますが、かういふ場合には、心配して籠のそばに行つてこれを鎮めやうとせぬがよろしい。鳥といふものは、いくらあばれても、ほうつておけば、暫らくすると静まるものです。それでもまだ騒いで止まない場合は、薄暗い静かな場所におけば必ず静まります。

▽弱い餌と強い餌

◆弱い餌と強い餌

孵化つてから三日目になると、雛の形が一時小さくなつて、如何にて衰弱したかのやうに元わます。この時に、なるべく餌に親ませて、弱いものには助けて食べさせるやうにし死なぬやうに用心しなければなりません。四日目になると、強弱の差がますます明かになつて、弱いものはこの日から五日目ぐらゐに死にますので、孵化つてから四日目あたりが一番大切な時期なのです。

一週間を経過したら育雛器に敷いた荒い目の筵を、砂に代へてやります。砂の厚さは二分くらゐに敷きます。三週間目からは、四五六七八九十の七ヶ月は最早火は要りませんが、十一月から翌年の三月に至る五ヶ月間はやはり火を入れ、また梅雨期には湿氣を防ぐために、火を入れてやる方がよろしい。

育雛器から火を離す前に、一日二日、天氣のよい日、日中南向きの日向

▽換羽時の飼方

に出して、その間は火を離して置いて馴らして行くのも良い方法です。

雛鶉は、細長く見わたるのが、丈夫な證據で、弱い雛は圓く見わたります。それは翼が伸びて身體が出来ないからで、かういふ雛は餘程注意しないと死にます。それで、かうなる原因は強い餌をやるからであらうと思はれます。それから丈夫な雛は硬い糞をしますが、翼の伸びた弱い雛の糞は軟かで鉛をどかしてやうにざろくして居ります。

◆換羽時の飼方

鶉を飼ふには、冬よりも夏場が難かしいもので、それは夏になると身體が衰弱するのと、もう一つは換羽の間際になるからであります。換羽とは夏の末、若くは秋の初めから、古い羽毛が追々と抜け代ること、この時期は鶉を飼ふ者の、最も注意しなければならぬ時であります。

世間では多く換羽については、鳥の榮養の一層増さなくてはならぬ

▽害虫の
驅除法

いとて、平素よりも強い餌（川魚を割合に多く混ぜた餌のこと）を與へるやうですが、かうすると換羽の時期が長引きますから、餌はかへつて川魚を少くして弱くし、寧ろ挿餌を撒餌に代へて（まき餌はキビ一升にエゴマ二合の割合で混ぜたもの）新しい青菜と清水とを與へ、夜飼いを廢して、籠は清潔にし、努めて害虫の發生を防ぎ、羽毛が抜けていたくしいやうになるのですから、なるべく觸つて怪我をさせないやうに注意するのが肝腎です。此の換羽の期間は、大抵二ヶ月ぐらゐのものです。

◆害虫の驅除法

夏期の飼育のむつかしいのは、換羽に近いために生理状態が亂調子になるばかりでなく、蟲もたかり、餌も腐敗し易く、又蚊が螫すといふやうにいろいろ鳥に障害が多いので、それらを防ぐ手當が必要です。併し蚊を防ぐには蚊帳を吊つてやればよく、餌は少し手數をかけて、一度で搦つてお

くところを二度に拵へてやるやうにすればよろしい。

夏になつて湧く蟲は、わくもといふ丁度蜘蛛の子のやうな蟲で、夜出ては鳥を襲ひます。これは主として鳥籠の不潔が原因で發生しますから、籠は一週に一度は必らず熱湯を注いで殺蟲し、そして常に十分清潔にしななければなりません。

このわくもが湧くと雄は忽ち啼音を止めます、また鳥が腰板の邊を、夜間襲ふて来る害虫を防がうとして啄くさまをしますから、さうしたらば直ぐ籠を検査するがよろしい、すると必ず一群の蟲を發見するか、また板の隙間のあたりに白い粉のやうなものが附着してをります、その白い粉のやうなものは、わくもの糞です。

外からで無しに、鳥自身にたかる蟲は、しらみです。これは人間に湧くしらみほどの大きさに鳥に比較して大きなものですが、大きいだけに取つ

てやるにむづかしいことはありませぬ
孵化つた時分、羽毛が乾いてもなほ母鶏につけておくと、母鶏から傳染
することも往々ありますから、羽毛が乾いたらば早く母鶏から離す方がよ
ろしい。また羽毛の濡れてゐるうちは、よしや母鶏にしらみがあつても雛
にはうつらぬものです、

しらみを取るには、全身にのみとり粉をまぶせるがよいが、幼蟲は胡麻
油をつければ直ぐに死にますから其手當が必要です。

次ぎに羽蟲は、砂浴をして鳥自身で驅除します。しかし砂が不潔になつ
てゐると浴びないから、砂は常に清潔にしておかねばなりません。

それから夏期とは限らず、鶉の敵は鼠であつて、餌の香ばしい匂ひをし
たつて來ては夜分餌を喰べます。そしてしまひには餌に満足せず鳥までも
喰ひ殺してしまふのです。

夏期の飼育がむづかしいといつても、注意一つであり、それに極暑の八
月は寧ろ飼育に骨が折れないで、六月の末から七月へかけてむづかしいの
です、この折には以上記した注意を手落なくする外に、努めて鳥をいらだ
たせないやうにし、時に挿餌の上部が潤ふ程度に清水を少々づゝ滴してや
ります、

◆鶉と卵賣のり方

餌にする川魚の粉は、都會ならば鳥屋でも賣つて居りますし、乾物屋で
も賣つてをりますが、田舎ならば、鮠や鮎を串にさして火に焙つて保存し
て置き、餌を挿る時に遠火にあて、挿鉢に入れて濡ればよろしい。

川魚でも豆でも玄米でも、材料はすべて上等の品物を選んだ方がよい。
十分餌が良いとか七分餌が良いとかいふけれども、品質を選ばなければ駄
目です。最も理想的の餌は、品質を選んだ五分餌にこすものはないやうに

思はれます。

普通の家庭副業としては、商人のやうに廣告して、卵や雛を賣るのは稍面倒くさい事でせうが、近來は鶉の流行につれて、鳥屋の方でも鶉の目鷹の目で、鶉を飼つてゐる家を探して歩きますから、鳥屋に賣るのが一番手軽で副業にふさはしい仕方のやうに思ふ。たゞ種卵を買はうといふ人は、信用の出来る素人が、責任を持つ専門家から買ふ方がよいのであります。近來は鶉の流行から飼育者が非常に殖れた爲め、種卵と共に雛が飛ぶが如くに賣れて、収益は孵化して雛で賣つた方が餘程多いやうです。孵化つてから三十日を過ぎたものなれば五圓はいたします。

それから雄は食用として賣ります。これは狩獵期中は廉いけれども、獵期が過ぎれば高價になります。

以上種々の點から養鶉について述べてまゐりましたが、鶉は概して雛か

ら成鳥にするまでに多く途中に斃れ易いもので、四日目までに死なずに過ぎたものも、十日、十五日とたつうちに不慮の事から死に易い。併し最早十六日、十七日と経過すればそれからは丈夫に育ちますが、それまでが肝心です。それで一腹孵化して半分とまれば、先づ好成绩と見てよいもので、若し孵化しただけ育てば、それは餘りに利益が多過ぎる話です。飼育者は餘りあせらずに、氣を落さないで馴れることが肝要であります。

鶉が病氣にかゝつた場合に、世間では兎角餌をいろいろ代へてみるやうで、例へば播餌をまき餌に代へたり、まき餌のものには播餌を與へたりするものですが、それは畢竟回復を計つてやるつもりでせうけれども、結果は決してさうでは無く、寧ろ害にこそなれ益にはならないので、必ず疾病前の餌を押し通すやうにするのが大切であります。

【三】養蜂

蜜蜂を飼ふのは、蜜と蠟とを採るのが目的であります。此の蜂が花の蜜や花粉を取るために方々飛び廻つてゐるのを見て、知らぬ人は作物に害になりはせぬかと考へるかも知れませぬが、却つてこれがために、花粉を、雌蕊につけて果物や野菜がよく出来るやうに作用をしてゐるのであります。蜂蜜は砂糖の代用品として使ふと大層徳用で、その上砂糖よりはすつと早く血液になりますから、身體のためには非常によろしいのです。また我邦では餘り一般に用ひられて居りませぬが、養物に使つても、水菓子などにかけて用ひても、砂糖より一段味がよく、その外薬用にも、化粧用にも用ひられます。蜜蠟にまた工業用では極めて必要なものであつて、これも亦化粧用にも應用されて居るのであります。

◆改良を要する我邦の養蜂

養蜂は外國では中々盛んで、英領加奈陀では、全國に十九萬群も飼はれて居て、年々蜜や蠟での収入は約二百三十二萬圓にも上つて居ります。其他塊太利では百五萬群もあつて同じく年收四百七十萬圓、獨逸では二百六十萬群もあつて、その年收は實に二千萬圓といふ莫大な利益を擧げて居ります。

殊に米國は養蜂事業の盛んな事は世界一で、四百萬群を有し、年々これにより四千萬圓の利益を擧げて居りますが、この米國ではこれが殆んど婦人の職業になつてゐて、有名な婦人養蜂家が澤山居ります。

然るに我邦の養蜂の仕方はまだ極めて幼稚拙劣なもので、外國では一群の蜂から少くとも二十斤から五十斤、多いのになると二百斤から三百斤といふ多量の蜜をとりますのに、我邦の現状は平均五斤くらゐにしか當らないのですから、何とか飼ひ方を改良して、せめて外國の半分くらゐの蜜の

とれるやうに致したいものです。併し茲には専門としての養蜂ではなく、副業として誰にも、出来るやうな範囲で述べてみませう。

◆先づ資金は何程要るか

一時に大資本を出して澤山飼ふのは別として、副業的に飼ふのには、最初から大きな利益は得られませぬが、漸次に馴れて来てから群を殖やして行けば、暇々の手入れだけで利益は必ず得られるやうになるものであります。

今日蜂蜜の相場は、卸が百目約二十銭で蜜蠟は百目約一圓見當ですから一二群では餘り利益はありません。併しほんの僅かの手入で婦人にも子供にも飼はれるのですから、これが誠に便利な點であります。

先づ副業的に飼ふのにはどんな道具が入用かと申しますと、

巣箱(四圓位)、燻煙器(一圓八十錢位)、給餌器、十錢位)、蜜分離器(十

四圓位)、探蠟器(三圓位)、捕蜂器(三圓位)、覆面布(五十錢位)、雄蜂驅除器(四十錢位)

以上の道具くらゐはなくてはならぬ物で、先づ五十圓もあればこれらの道具を一通りと蜂まで揃へる事が出来ます。

それに蜂は、牛や馬を飼ふ時のやうに、毎日飼料を與へる必要が無く、自然の食物の足りない時と、冬だけです。その方の費用は餘りありませんし、又一群の蜂は二尺四方もあれば飼はれるのですから、地面が狭ければ膽下に置いて、屋根の上に置いても飼ふことが出来ます。

◆蜂の生活は社會組織

蜜蜂は澤山集つて一群づゝの面白い生活を營んでをります。その内には唯一匹の雌蜂(女王)と數萬の働き蜂と、季節によつて數百の雄蜂とが居ります。

女王は群中で一番大きく、仕事は卵を産むことで、一日に多い時には三千粒くらゐも産み、一年には四萬から七萬も産みます。此の女王は無精卵と、受精卵とを自分の思ひ通りに産む事が出来るのです。

受精卵は普通の食物で飼つて平均二十一日で蜂になります。これが働き蜂です。ところが同じこの受精卵を特別に滋養分のある食物を與へ、王臺といつて落花生の殻を倒さにしたやうな物の世で育てますと、凡そ十六日ばかりで蜂になりますが、これは即ち新しい女王になるべき蜂であります。無精卵は普通の食物で飼ふと平均二十四日くらゐで蜂になりますが、これは雄蜂です。

女王の壽命は四五年ですが、三年位で交換した方がよろしいやうです。働き蜂は體は群中で一番小さいのですが、中々の勤勉家で、生れた蜂の世話から、巢を作つたり、食物を集めたり、巢の中の掃除まで一手に引き受

▽
買ふ蜂の
注意時

けて致すもので、冬は永く生きて居りますが、夏は一ヶ月くらゐで死んで、後から後からと新しいのが産れて来るのです。

◆**蜂蜜を買ふ時の注意**

蜜蜂には、日本種、サイブリアン種、イタリヤン種、ゴールデン種カーニオラン種等いろいろありますが、日本の氣候に最もよく適したものはカーニオラン種です。

これは至つて性質が穏やかであつて、蜜を澤山集めます。一群の値段は約十四五圓でせう。

買ふ時にはその一群について最も注意する必要がありますが、どんな群を買へばよいかと申しますと、蜂の巢の中を見て、女王が新しく、元氣で卵を澤山産みさうなので、殊に働き蜂が多數居るのがよいのです。又、どんな女王が新しいのかと申しますと、體が大きくて、不具者でなく、

お尻のあまり、圓過ぎない、少し尖り目のものがよろしいので、それに巢の中に新しい卵が澤山産みつけられて居れば、それは卵を澤山に産む新しい女王なのであります。

◆飼ひ場所と食物

蜜蜂は、花粉と花蜜と、水とを食物にしますから、この三つのものが揃つて年中あるところなら、どんな所でも飼はれます。三つのものが揃つてゐると申しても、蜂は自由自在に飛び廻るもので、一里四方くらゐは平気で、時には三四里も飛び廻つて蜜を集めて來るのですから、東京、大阪等の市内でも飼つて行けますが、最もよい場所は郊外の、花の年中多いところですよ。

氣候の方からいふと、寒い地方でも、暑い地方でも飼つてゐますが、唯雨の多いのは、蜂には大變害になるやうですよ。日本では野にも山にも澤山

花がありながら、蜜のとれる量の少ないのは、一つは雨の多い爲めにもよるのであります。

巣箱は夏は涼しく、冬は暖かく、なるべく東南が開け西北が山や丘になつて居るところに置けば理想的です。餘り暑くない限りは日當りのよい、草などが餘り繁くない、芝生のやうな所がよろしい。それから蜂の出入口は東向きにする方が、蜜を比較的多く集め、西向きは仔蜂が殖ゆる傾きがあります。

どんな植物が蜜を採るのに最もよいかと申しますと、蜜蜂が花から花まで餘り飛び廻らずに、蜜や、花粉が集められるのがよいのですから、花が小さく澤山一緒に咲き、花粉や蜜の量が多い植物がよいので、前にも申したように世界で一番養蜂の盛んな米國では、殊更に蜂のためによい植物を栽培して蜂を飼つてゐるところもあります。又た蜜を澤山とるには一時に

澤山花の咲くのが宜しく、花の盛り時に、一時に十分多くの蜜をとらせるのです。日本にある植物で、養蜂上大切なものの例をあげて見ますと、柳、榛の木(三月頃開花)、杉、菜種、果樹類、櫻(四月頃開花)、柿、栗、棗、榎、大豆、(六月頃開花)瓜類、夏蕎麥(七月頃開花)、蓮、溝萩、玉蜀黍(八月頃開花)葛、萩、苧荳(九月頃開花)、秋蕎麥、山茶花、茶(十月頃開花)

などで櫻は香のよい蜜がとれ、萩は清い蜜がとれます。

それから前に述べたやうに花のある間は、毎日餌をやるには及びませんがそれかといつて飼つて捨ておけば多分ひとりで蜜を集めてくれるものと思ふのは大間違ひで、細心な注意を怠つてはいけません。併し注意さへすれば一寸した暇々に出来る仕事で、東京の某中學生徒は、學業の餘暇に養蜂をやつて、卒業までの學費を易々と得たといふ事實さへありますので、

▽
蜂の動靜に
注意する
必要

日本などでは大規模に、即ち專業的にするよりは、寧ろ小規模に飼つて、副業的利益を擧げる方が、安全でもあり収益が確實でもあります。

◆蜂の動靜に注意する必要

それで、いよ／＼蜂を飼ふ時には平素から蜂の動靜に注意するのですが、慣れて來ると外から見ただけで、蜂の群が盛んであり、元氣であるかどうかが直ぐわかります。が、初心のうちには時々巣箱の中を開けて見る必要がありません。尤もこれはなるべく開けない方がよいのですけれども、初心のうちにはさうしないとわかりが悪いです。

巣箱を開けるのは、暖かい時にしなければなりません。そして蜜が澤山貯へられてあるか、卵が澤山産みつけられてあるか(卵があり蜜があれば蜂は逃げません)雄蜂が殖わてあるかどうか、王臺がいくつあるか、巣箱の中が清潔か、女王があるかあないかなどといふ事を調べて、蜜が貯へら

れてあつたら採り、雄蜂が多過ぎたら蜜を無闇に食べますから、これを雄蜂驅除器で除きます。但し群を増さうといふ時には除つてはいけない。

又た王臺が餘り多過ぎる時には、これを制限して蜂を分けないうやうに致します。巢箱が不潔でしたら掃除をしてやるのですが、かういふさまの手の入れをする時には、螫されないやうに覆面布をつけてをりますと、少しも螫されませぬ。これも慣れて來ると、螫す時と螫さぬ時とが、一見してわかるやうになつて來ます。

尤も假令螫されたにしろ、二三日の間そこが腫れるだけで、ハブ草の葉を揉んでつければ直ぐ治ります。この外巢箱を見るのに、燻煙器で燻煙しておくと少しも螫されないりであります。

◆飼料を與へる 合

長雨がつゞいて蜂が働けない時や、山野に花が無くなつた時に、捨て、

おきますと蜂が死んでしまいますから、此場合は飼料をやらねばなりません。又た蜜の最もよく採れる花盛りの時に、働き蜂を殖やすために飼料をやる事も必要です。

蜂の餌といふと一寸變に思はれますが、餌で一番いいのは蜂蜜を薄めたもので、併し折角とつた蜂蜜をやるのは惜しければ砂糖水でよろしい。砂糖水はザラメ糖を文火で溶かして、これに少量の酒石酸を入れてやります。しかしこれを與へる時に餘程注意しなせんと蜂の盜賊が來て、折角貯へてある蜜を見てゐる間に盗んでゆかれます。

蜂の盜賊といふのは、山野に花が無いので蜂が方々食物を探ね廻つてゐるうちに、甘い匂ひを嗅ぎつけて來るので、中々澤山來るものです。この盜賊蜜は入口に來て、何となく穩かでない風をし、若し見つかつたら直ぐにも逃げ出さうとして居りますし、襲はれた方でも嘩嘩腰になり、やがて

取組み合を初めてゐるのは盗賊蜂の來てゐる證據です。これを防ぐには、水を澤山かけた長い草を入口のあたりに散しておけば、中へは寄つて來ぬやうです。

又た蜂の勢いが弱いと屢々盗賊蜂に襲はれますから、弱い群はその女王を一匹殺して、蜂の群を二つ一緒にしますと勢ひが強くなります。尙ほ盗賊蜂の來ないやうに、夕方になつて餌を與へるとこの害は少いのです。

餌も砂糖水の外に、花粉の代用にコンスターチを巢の中に入れてやります。此の外餌をやるかはりに花が澤山ある所に巢箱を持つて行つて、十分に蜜や花粉を貯めさせるのもよいのです。冬を越すのも餌が十分に貯へられてあれば安心なので、餌が十分に貯へられたら菰につゝんで暖かいやうにしてやります。

それから四季の手入れについて簡単に申しますと、春になりましたら、

▽四季の
法手入れの

冬を無事に越して來た蜂群を、なるだけ晴天で暖かい日に巢箱の中を掃除して、餌をも與へ、蜂群を盛んにして櫻の澤山あるところならば蜜を採る用意をなさい。油断をすると、折角冬を越したばかりのものを殺す事があります。

夏は五月中に蜂の群を殖やすやうにして、段々暑くなつて來たら入口を開き、又巢箱の中を廣くし、涼しさうにしておやりなさい。そして梅雨の候には雄蜂を驅除して、餌を與へねばなりません。

秋は萩、蕎麥から蜜を集めますが、餘り取つてしまつて冬が越せなくなりますから、十月頃から冬の用意に餌をやらなければならぬ。

冬は菰などで巢箱を包み、出入口は小さくし、且つ巢箱の中も群が少くなつたら段々に狭くし、又時々蜜の貯へを檢べてみて、少くなつてゐれば、餌を與へるのです。

◆分蜂させる方法

蜂を殖やすには、女王を殖やして分蜂させればよいのです。女王を殖すには自然に殖やす仕方と人工で殖やす仕方があります。

蜂の群勢が澤山にあつて、野山に花のある時期ならば、蜂が自然に王臺を作り、新しい女王を育て、いよいよ新女王が出ると、舊女王は一群の雄蜂、働き蜂を引連れて飛び出し、近所の木の枝などに集りますから、これを捕蜂器で取つて、新しい巣箱に入れ、舊い巣箱から卵や、蜜のある巣箱を一枚とつて入れますと、其處へ蜂が落ちつきます。又た舊箱に王臺が澤山になると、後から續々新しい女王が産れて、前と同じやうに飛び出しますが、こんな時にはいつでも妹女王が外へまゐりますから、前と同じやうに新しい巣箱に入れ、分蜂させます。

以上は自然に殖す仕方ですが、人工で殖やすのは、中々技術を要し、素

人の方々は到底初めから出来難し事で、これは省略しておきます。

◆蜜や蠟の採り方

蜜が貯へられたら採るのですが、蜜は大抵巣箱の上の方と、その兩側と、兩端にある巣箱に貯へられ、蓋をされた時が一番蜜のよい時ですが、花期の短いところでは長くおけませんから、貯める次から次へと採らねばなりません。

採り方は、先づ燻煙器で燻煙し、蜂を酔はせておき、それから蜂を拂ひおとし、蓋のあるものは刃の薄い切物を湯の中に入れて熱したもので蓋を切り落とし、分離器の中へ入れて廻すとよろしく、十分に分離いたしましたら、蜜一に水二の割に混ぜ合せ、沸騰しない程度に熱して厚い布で濾し、湯煎鍋で煮つめ、壘に入れて賣ります。

蠟は巢の古いものから搾りますので、先づ巢を製蠟器の中に入れ、日光を

當てるとひとりでに溶けますから、それを採つて精製するのであります。
なほ養蜂の實驗については、これも養鶏や養鶉その他の家庭副業と同様、
本社發行の『貨殖新聞』には毎號のやうに實驗家の報告があります。殊に
第十三號、第十九號、第廿四號等には詳細な記事が二三種づゝ掲載されて
居り、第廿六號紙上には朝鮮に於ける養蜂の實驗報告が掲げてあります。

【四】 家 畜

廣く家畜といへば、牛馬の如きは最も人間の貢獻するところの多い主たる家畜であります。併し本章には副業として利益のある家畜に就いて飼養法を講述いたすわけで、專業でなければ飼養の難かしいもの、また假令之を試みても家庭の副業としては利益の伴はぬものはすべて省略いたします。ところでさういふ副業として利益の多い家畜に就いては、本社發行『貨殖新聞』紙上に、既に左記の如く掲載してありますので、茲にそれらを再出するの重複を避けたいと思ひます、今回紙上掲載の細目を示して見ますと

養 豚 (十二號、十四號、十六號、廿二號、廿八號、廿九號)

養 兔 (八號、十一號、廿七號、廿九號、三十號)

▽養豚に
就いて

狎の飼養 (十三號)

緬羊の飼養 (十三號、十六號)

緬羊の飼養 (二十八號)

家畜衛生詳解 (十三號)

右のうち廿八號、廿九號紙上には大阪府立農學校教諭矢田芳藏氏の養豚に關する詳細な説明がありますが、殊に第二十二號は「養豚利殖」に就き臨時號を刊行いたしましたので、最も詳細に且つ通俗に説明してあります。そして此の養豚利殖臨時號は猶ほ殘本があります間は、配本申込者に對し、無料進呈をいたしますから遠慮無く御申込を願ひます。(配布濟本切)

次に養兔に就いて、第八號、十三號紙上等何れも實驗者の起稿になるもので、初めて養兔を試みんとする方にとつて多大の參考になる事と信じます。

▽養兔に
就いて

殊に第二十九號紙上には、第四師團野砲兵第四聯隊附陸軍少佐根村正位

氏の詳しい養兔實驗談を掲載してありますが、同少佐は非常に熱心な養兔實驗家で、夫人と共にこれが調理法まで種々研究されて居る篤志家であります。同紙上には此の外養兔に關し二個の有益記事が掲載してあります。

又た第三十號紙上には、在朝鮮の紙友から天竺兔の飼養に就いて、珍しい實驗報告があります

第十三號紙上の狎の飼養……特殊の家庭副業としてかなり有利なもの

……は、これまた家畜として珍らしい飼養及び收益の實驗談であります。

それから同じく第十三號及び十六號には、緬羊の飼養、二十八號には山羊の飼養がありますが、何れも多少の參考資料たるを失はぬものと思ひます。

そして第十三號には貨殖新聞獨特の讀物であります『常識講座欄』に牧畜に關する一般智識を解説してありますが、これまた本章に轉載すべき性

▽緬羊の
飼養

質のもの、紙面も都合で省略いたしますので、これも併せ読んでいただきたい。猶ほ同紙上、家畜衛生の詳解し本章には轉載を差控えます。で、本章には如何なる家庭にも、また婦人子供にでも出来、飼養法が簡易で、而も利益の多い特殊の家畜を紹介するだけに止めます。

それは何であるかといへば、山羊の飼養法で、尤もこれは廿八號紙上に寄稿された實驗報告がありますが、それは餘りに簡単に過ぎて、初めて飼養を試みられる人にとつては、不便を免れませぬゆる、これを一層委しく實用的に記述いたしたいと思ふのです。

山羊の飼ひ方

一と口にヒツジといひますが、本當のヒツジは只今の言葉では緬羊といふのです。繪などにヒツジとして顎髯の生いたヒツジを見ますが、あれが

山羊なのです。

緬羊と山羊との相違はいろいろありますが、角や顔や毛や尾などで直ちに見分けられます。角は緬羊には無いが、有れば曲つてゐてそして巻いて居りますが、山羊のは真直です。大抵山羊には牡は顎髯がありますが緬羊にはありません。

緬羊の毛は澤山でちぢれてゐますが、山羊の毛は少なくて、真直なものばかりです。尻尾は、山羊のは短かく緬羊のは長い、緬羊は大層おとなしく、所謂穩和といふことを羊のやうといはれますが、山羊は少し亂暴です。

緬羊も山羊も何れも農家の副業には好適の家畜であります。専門家の謂ふところでは緬羊は一年間に約三圓五十錢ばかりの諸入費がかゝり、毛の賣上高は三十圓位になるさうで、またその子は只今一匹七八十圓になるさうですが、現在買ひたいにも子はないさうですから、お勧めしても手の

出しやうは無いのです尤も農商務省では極力綿羊飼育を推奨して居りますので、時々輸入しては貸下げ法などもあるので、時宜を見て購入する事は出来る筈で、只希望者が餘計の時は、容易に一般には廻りつきましますまい。ところへ行くと山羊の方は飼いが易く、滋養の多い乳や肉を産し、皮は種々のものに造られるので、相当利益の多い家畜なのであります。

◆山羊乳と牛乳との比較

山羊乳と牛乳との成分を比較すると、次のやうになります。

	山羊乳	牛乳
全固形物	一四、二九	一二、八三
蛋白質	四、二九	四、五五
脂肪	四、七八	三、六九
乳糖	四、四六	四、八八
灰分	〇、七六	〇、七一

水分

八五、七一

八七、一七

右の表の示す通り一体に山羊の乳には脂肪が多く、濃過ぎて子供には消化が悪くはなからうかどの心配もありませうが、山羊の乳の脂肪は非常に細かくて、至極消化し易く、牛乳では痩せてゐた赤ん坊が、山羊の乳を用いさせてからはドシ／＼太つて、見違へるやうになつた例は澤山あるといふ、これは内外の小児科醫の経験するところでありませう。

◆山羊乳はどんな割合に用ふるか

小児科専門醫の話によると、山羊乳一合に對して、初生兒一ヶ月位は水四合を、二三ヶ月は水三合を、産れて四ヶ月からは水二合を、五ヶ月からは水一合を、六七ヶ月目には水五勺を割り、小兒が十ヶ月に達すれば初めて山羊の純乳を與へるといふ具合に用いるのださうです。又た大人でも山羊の乳を呑むと牛乳は呑まれなくなるといふくらゐなものです。

◆どんな種類が飼養に適するか

山羊には乳用の種類と、毛用の種類とありますが、家庭副業として適當なのは乳用の種類であります。

尤も乳用の種類にもいろいろありますが、我邦の風土に適して、澤山に乳の出るのはザーネンといふ種類です。これは分娩當時は日に三升くらの乳を出しますが、半年もたつと一升七八合に減ります。

一番好く乳を出すのは、トッケンブルグ種で、これは一日二升から二升五合です。日本に昔からあつた種類は乳を出しません。

山羊を飼ふときには、若い二三歳のものがよく、年齢は口は開けて齒を見ると直ぐわかります。即ち割合に廣い齒が二枚あるのは、二歳で、四枚あるのは三歳、全体に廣い齒ばかりなのは年をとつた山羊です。それから勿論丈夫なものでなければいけないが、これは一見して元氣に見わるのが

丈夫なので、又乳の澤山出るか否かは 二三度乳をしぼつて見ればわかります。それになるべく穏和で癖の無いのを探ふのですが、良い種類の仔で六ヶ月くらゐなところを飼ひ、よく自分で馴らして行つた方がよろしい。で、年中同じ位の乳を取るには、牝三匹と牡一匹なければならぬもので、普通の値段は先づ一匹七八十圓であります。但仔山羊は三十圓前後で買はれます。

◆山羊の飼料に就いて

山羊は至つて丈夫で病氣も少く、粗末な食物でよいので、非常に飼ひ易い家畜です。飼料は大根、蕪菁、馬鈴薯、里芋のやうな根菜類はいふまでもなく、いろいろの雑草の生のものでも、乾かしたのも、穀物でも木の枝でも落葉でも、勝手の料理屑でも、その外いろいろな木の實でも、豆腐洋でも何でも食べないものではありません。

併し山羊に食べさせてならぬものは、イチビ、タマツバキ、シヤクナギ、トリカブト、アセボなどで、これらは毒がありますから與へないやうにせねばなりません。それで山羊の身體に僅か二尺七八寸で、體重は二十貫前後もあり、身體の割合に澤山の乳を出すのであります。

羊舎は、建物の南側で、明いてゐる所があれば、壁に差し掛けて造つた小屋でもよく、一匹につき幅二三尺長さ三四尺ほどに當れば十分です。

乳は青物の生のまゝを多くやれば澤山に出ますが、さうすると薄くつて、時としては下痢を起すことがありますから、青物ばかりでなく乾いたものを混ぜてやるのがよろしい。併し冬は乾いたものばかりでなく、青物を混ぜるやう加減してやることを忘れてはなりません。それから水と鹽とを絶やさずに與へて置く事が肝要であります。

尙ほ山羊に與へる食物は、なるべく清潔な容器に入れて、その分量はそ

の時に食べ盡すだけにし、必ず與へ過ぎてもいけない。又これを與ふる時は規則正しくすることが必要です、それと時々廣いところに出して適度に運動させ、身體もその時に葉の乾いたので拭いてやるのです。

◆乳の搾り方はどうするか

山羊の乳の搾り方は、牛乳を搾つた事のある人には極めて容易ですけれど、初めての人には一寸むつかしいので、これは経験家の實地について教へて貰ふ方がよろしい。只此處には、一般に注意すべき概要を記します。

乳をしぼるのはどうしても優しい女の方などが最も適當で、男でもこの心持で優しきを持つて取扱はねばなりません。そして乳房には一滴の乳も残されぬやうにし、毎日時間を定めて朝夕二回にしぼればよろしい。それを不規則に乳つてゐると、漸次に乳の分量が減るばかりでなく、終には乳が出なくなつて了ひます。

終りに大略の收支計算を擧ぐれば、先づザーネンでは一日平均一升五六合の乳量で、産後五ヶ月位は續いて乳を出します。それゆへ牝三匹なれば年中一日平均二升位の乳がとれますから年七石三斗で、一合十錢づゝとすれば七百三十圓になります。

飼料や諸入費で一匹六錢とすれば、牝一匹牝三匹で大凡八九十圓ばかりかゝりますが、乳の賣上代の外に仔山羊も賣れるし、牝山羊は肉用にも毛皮用にも賣れるのでありますから、副業としての家畜中では、かなりに收益の大きいものといはねばなりません。

因に飼養法の稍詳しい通俗的な書籍は神奈川縣橋樹郡旭日村子安農園發行の「山羊の飼方」一部三十五錢が恰好に思はれます。

△草根木
皮薬用
の復活

【五】 薬草栽培法

過去五ヶ年に亘つた世界空前の惨禍でありました歐洲大戦亂のために、西洋から薬物及び製薬材料の輸入杜絶が動機となりまして、我邦でも薬物の自給を計るために、今までは漢法醫の草根木皮の何の價値があらうと高を括つてゐたものが、急に復活して此方面に薬用の有無が研究され、遂に今日の如く薬草栽培が盛んに唱道され且つ實行されるやうになつて、殊に利益ある副業の一つに數へられるやうになりました。

そして以前に田舎の農家にのみ僅かに副業として行はれてゐたものが、近頃では都會の地に於ても薬草栽培が唱道され、盛んにこれが試みられて中にも徳川侯爵家、山田伯爵家、鳥居子爵家などでは、邸内の空地を利用して、大いに薬草栽培を試みられて居るほどであります。

かういふ上流貴族社會での藥草栽培は、必ずしも利益のためばかりでは
ありませんが、御承知の通り藥草の中には牡丹や芍薬もあり、菖蒲や紫
蘭等を初め、随分庭園の觀賞植物として賞美された上で、その後は藥草原
料として高價に賣れるものも澤山ありますから、そこで上流社會では同じ
ことならばかういふ種類を栽培して、觀賞と利益を一舉兩得を企つる向き
も多く、従つて都會にまで今日の如き藥草栽培の大流行を來したのであり
ます。

そこで少しく利殖の道に心がけのある人々は、今日藥草栽培の有利な事
は誰でも既に知られてゐる事で、假りに家の周圍に二三坪の空地があると
して、そこを利用して藥草を栽培して見たいと思ふ場合にさういふ藥草が
あるかといふに、藥用サフランなどはそれに適合したもので、これは寒い
土地でも暖かい土地でも、日本全國どこにでも栽培されますから、素人の

▽サフラ
ンの裁
培法

方が試みるにはこれが最も安全であります。
そして藥用サケランの植附期は、九月上旬から下旬にかけてが一番よい
ので、それが十一月には花を開き、栽培の目的たる雌蕊をとればもう賣品
となるので、播種後僅かに三ヶ月にして金に代へる事が出来るのでありま
す。

◆泊 芙 蘭

藥用と花泊芙蘭とあるから種物屋に注文する場合藥用さふらんと指名す
る事を忘れると馬鹿を見る事がある。
莖は球形で其下に根があるのだが、普通はこの球を根といつてゐる、そ
の大きいのは直径一寸二三分もある。

植附けると松葉のやうな葉が發生し之が長くならぬ間に中央から筆の穂
先のやうな蕾が出る、花は六瓣で淡紅色の極めて優美なもので、雄は普

通だが雌雄は上が三本に分れてゐるのが特徴で、この雌雄が重要な薬品である。

氣候は暖かな土地ならば少々地質に缺點があつても大丈夫で、理想的な地質はこれも砂地であるが、洪積土、沖積土即ち洪水で運ばれて来た土壤が之に亞ぎ、其他濕潤と腐敗質の地を避ければ大抵栽培に適する。

植附は九月中で（半熱帯半寒帯地は半月ほど遅速を加減する）あるが、早過ぎても遅過ぎても花が小さいから、植附には少しく注意を要する。

種球は三通りにして大（一球から四五の花を開くもの）中（開花二三）小（開花一つ）とし、大は畦幅一尺二寸位、中は一尺位、小は八寸位にし畦に溝を掘りその底に元肥を與へる。

此は先づ大事をとつて五畝歩栽培する事とし、堆肥六十貫油粕十貫を布き込み其上に土を被せ、種球が直接觸らないやうにする、種球の各距離は

球の直径の四倍位、深さは球の上にその三倍の土をかける位にし、植附後に球の位置の兩側を軽く踏んで置く球の落附きがよく土がひごく乾燥しない。

追肥は寒肥にするがよく、その頃まで元肥は有効である。元來さふらは磷酸性のもので加里成分のものを吸収するから追肥は米糠と草木灰を根本から稍離れてまき、その上に中耕と同様に土をかけて置く。灰は木灰が好く藁灰一石に對し木灰は五斗で同じ効力がある。

採取は、花が満開の時、晴天の朝、ピンセットで雌蕊を本からちぎり風に飛ばぬやう深い筥に取る。若し雨模様なら手早く花と共に摘取り屋内にて花と雄蕊を除き、雌蕊即ち藥蕊のみを拾ひ、降雨でなければ風通し好い場所に、清潔な紙を敷き薄くひろげて其上に又紙をひろげて覆ふて置く。若し雨天ならば遠火で紙籠に入れて乾上るのだが、それは淡紅色の花が稍

黒ずみ、燃れかゝる程度で好い。

之を清潔な水分の皆無な壺に入れ、密閉して貯藏するので、貯藏した薬
蕊はそのまゝ茶碗に数本入れ熱湯を注ぎかけ、よく攪きまわして黄紅色に
なるまでして汁を呑み残つた蕊も噛み砕いて吞下してよい、風邪などは三
回も呑めば治るといはれてゐる。其他婦人病一切に効果があり日本薬局
方ではさふらん丁幾、舍利別も出来て居る位で、近頃はさふらん錠だの葡
萄酒、さふらん湯、飴、煎餅に致るまで出来た有様で薬蕊も種球も需用多
くごこの薬種問屋でも買入れるから販路は非常に廣い。

今五畝歩栽培の收支を計算すると、

支 出

金七十五圓三十五錢
内譯 金六十五圓三十錢
金三圓六十錢

總 支 出 金

(母球大七千五百、中小五百球代)
堆肥六十貫目代

金三圓七十五錢

金七十錢

金五十錢

金一圓五十錢

油粕十貫目代

米糠半俵代(農家には自家にある)

灰三斗代(同上)

地代雜費等

收 入

金百七十一圓二十七錢

内譯 金四十五圓

金五十八圓七十七錢

金六十七圓五十錢

總 收 入 金

(藥品二斤二十五匁、一斤二十圓の割)

(母球一割減を見て六千七百五十球代)

(母球一個につき大、中の平均増殖二個
牛さし一萬六千八百七十五個代、一個
四厘これは極く内輪の見積りで實際は
猶遙かに多いのが普通である。)

差引純益金九十五圓九十二錢也

以上は五畝歩第一一年目の利益であるが二年目には種球を購入せず一反
歩を栽培する事が出来るので初年よりは尠くとも三倍の利益を見る事が出
来る。

◆人参栽培培法

薬草人参は根の先が三本に分れてゐる恰好から人間が三人といふ形容をして當字をしたもので、これは蔬菜の胡蘿蔔とは全く別種のものである。薬草人参栽培に適する氣候は餘り暖地も寒地も好ましくないが日本ならば大抵何處にでも適するといつて差支ない。地質は砂質土壤即ち砂地が第一で次に礫混りの土地であるが、要するに排水が十分に出来る土地が好いのである。

最初別床に苗を養成して二年目に本圃に移植するのが理想的であるが、直播でも好い。播種は普通十二月冬至頃を適當とし、播種の前に特に準備が必要でそれは播種三週間前に桶に水を入れその中に種子を浸し晝間は日光に暖めるやうにして二三日すると種子が膨れる、若しさうして膨れない種子は不良なのであるから之を除き良種のみを布の袋に入れて十二三日も

日蔭地に埋めて置く。

收益計算の都合上一反歩栽培として述べる事にするが、一反歩に就て種子は三升の割である。播種の平床は巾三尺長さ二丈位に南北に向けて築き床と床との間は一尺五寸程作業道に明け、此土で床を四五寸の高さに盛り播種四五日前に平床には油粕三斗、過燐酸石灰一俵を混ぜて床面に一樣に施肥し、床には四寸置き位に筋を入れ深さ二寸程の小溝を掘其底を軽く棒にて押しつけて種子を下し、その上を竹箒で軽く掃くと種子が程好く埋まる。

それから氣候次第で雪は少しも害にならないが霜柱を防ぐために切藁糠殻蕎麥殻等を蒔く。それで翌年四月には發芽するので、その上に半永久的な日覆をせねばならぬ。

日覆は床の南側を八九寸、北側を一尺一二寸に組立て其上に薄目に茅か

藁で屋根を作る。此二年目には床土の堅くならぬやうに、根を痛めぬやうに注意して打返し追肥として大豆粕粉末を全部に一斗ばかり施す。

第三年目の五月上旬に大豆粕二十圓位を施肥し、これで三年目の終りには根が鉛筆大となり第一回の收穫となるのであるが、此場合には未だ一反歩で百五六十圓位にしか當らないから收穫しては早くもあり損でもある

四年目には一層成育するので、今度は馬糞と草木灰を混和して肥料を埋込むと五年目には最早施肥は要らない。此の五年後も成育の見込はあるが五年目に收穫するのが最も有利なのである。

收穫期は三四、九十の二期に尖つた棒で根を傷つけぬやう丁寧に掘り土を拂ひ根本から莖葉を切り根ばかりにする、これを土根といひ、これで賣つても好いのであるが精製すれば一層利益が多い。

精製法は土根を清水に入れ木綿切で好く洗ひ鬚根を除いたのを鐵器（釜

か鍋で好い)にて五分間程煮沸し、(これに蕃辛、甘草、杷子實等を少量加へると好い)日光に晒して乾かすので土根一貫目が百六十匁程になる。此精製したもの十五個で百六十目程に當るのが最良のものとするのであるが長野縣などでは三年目に收穫するから最良品は出つこなしである。以上の栽培法による收支を計算すると

支 出

金百八十三圓三十七錢

内譯金十九圓

金三十二圓五十錢

金十圓五十錢

金二十二圓五十錢

金一圓八十錢

總 支 出 金

種子三升代

肥料代

(手間初年廿一人)

日覆茅三十駄

藁代

金五圓二十八錢
 金二圓五十七錢
 金三圓三十錢
 金十八圓
 金一圓八十錢
 金一圓六十錢
 金五圓四十錢
 金二圓七十錢
 金五圓四十錢
 金五圓八十錢
 金二圓四十錢
 金五圓

長杭 三百三十本代
 短杭 同上
 梁 同上
 細木 六百本代
 同 橫圍用六十本
 繩 六束
 二年目 手間十八人
 三年目 同 九人
 四年目 同 十八人
 小屋 修繕費
 五年目 手間十七人
 五年間小作料

收入之部

金六百七十八圓

總收入金

内譯金二百二十八圓 (四年目土根六十貫一貫二圓八十錢當り)

四年目に成育早きものを抜出して賣る、此間引によつて五年目却て
 好く成育す。

金四百五十圓

(五年目九十匁土根一貫目五圓當り)

差引純益金四百九十八圓六十三錢也

(二年平均純益金九十八圓二十六錢也)

右の如くであるが近年は販路はいくらもあり市價が益々高くなるばかり
 であるから薬用人參栽培は早く初めるほど利益である産地産額を示せば

朝鮮 十萬斤 斤價 三十圓 年額 三百萬圓
 支那 三萬斤 同 二十圓 同 六十萬圓

北米 十二萬斤 同 二十圓 同 二百四十萬圓
 日本 三十萬斤 同 八圓 同 二百四十萬圓
 因に藥効は病後衰弱、貧血、神經病、リウマチス、子宮病、胃、心臟、肺など所謂賣藥の効能を並べ立る程ある。

◆だ い わ う (大黃)

大黃は亞細亞北部に播殖してゐる多年草で野生のものがどこにもある。此根は大根、入參のやうに根莖で、支那では太古時代から貴重な藥草としてゐた。

歐羅巴にも支那から古く傳へられたが英國では之れを改良栽培して蔬菜にしてしまひ、夫が滋養に富み且美味であるといつて今日も盛に用ひられてゐる。

露西亞では歐羅巴諸國中第一に藥劑に採用して、政府の專賣品とした。

▽大黃栽培法

そして何れも支那から傳へたものであるが日本でも青森縣津輕郡、岩手縣九戸郡伊保内村地方では非常な良種を産してゐるのである。

大黃は二三月頃、古根より發芽し、五六月頃に花莖を出して七月に黄色な穗狀の花を開き、八月には實を結ぶ。

種子は秋の彼岸後に冷床におろすので一面に厚薄なく撒き、其上に細かい土を一分目篩にかけ乍ら二三分の厚さに被らせる。若し土質が乾燥するやうなれば藁で床を覆ひ、尙乾き過ぎるやうなれば適宜に灌水する。

元來寒氣には恐れぬものであるが、寒地ならば籾殻か菰なぞで直接に覆ふて置くがよい。温暖地ならば無論其必要なく日本では何處にも野生に澤山ある位だから栽培は極簡單にできる。

さて種子が發芽すれば、人糞の腐熟したものを極薄くして施肥し、冬でも根はぐんぐん育つから前よりも少し濃くして寒肥を施す、但人糞でなく

とも油粕でもよいが、油粕は人糞より肥料力が強いものであるから、油粕一升を三升の水に腐熟させ、夫を更に三十倍に薄めて用ゐればよい。で、翌年三四月に床を三四倍に擴げて假植をし、根附を見てから今度は窒素と加里とに富んだ肥料をやる、窒素は人糞、油粕等に含まれ、加里は木草灰、糞等に含有してゐるから之を混せて施す。

此施肥は十月頃は二三回、回毎に尠しづゝ濃くして與へ、十月中には本圃に定植してしまふ、此場合に堆肥を敷き込むのであるが、根莖に觸らぬやう丁度さふらんの時とおなじ仕方では施肥するのである。

之を滿三年目に採集するので、時季は春か秋に於て十分肥大した頃を見定め根莖を掘り、清水にてよく洗ひ上皮を綺麗に取除くほどにして、これを天日に當て乾燥する。

一反歩畝の收穫量大抵七百斤以上で、相場は物により藥劑市場の關係

で一定しないが、目下の處三十圓内外で之より賤ればとて下落するやうな事は先づ今日の場合無いと見て差支へなからう。夫で百斤三十圓とすれば一反歩の収入は二百十圓となる。今支出計算を示せば

支 出 の 部

金五十五圓

支 出 總 額

内 譯

金五 圓

種子・五合代

金廿二圓

地 代

(初め一年六ヶ月を七圓、後の一年半を十五圓として)

金十九圓七十錢

肥 料

内金一圓廿五錢

(初め一年半)

人糞五荷

金三圓	(同)	上	油粕二玉
金六十五錢	(同)	上	草木灰一俵
金七圓五十錢	(後一年半)		堆肥百貫
金一圓卅錢	(同)	上	草木灰二俵
金六圓	(同)	上	干鰯一俵
金八圓三十錢			人夫賃延人員廿人

収入之部

金二百十圓

收入總額

(七百斤收穫、百斤卅圓の割)

差引純益金

百五十五圓

一年當り金

五十一圓の割

藥効は瀉下劑、健胃劑に用ゐられ殊に産前産後の疲勞回復には大功がある。

るといはれてゐる。外用としては粉末にして飯粒に混ぜ布に塗り、疥癬、瘡等に一日二三回も貼りかへれば一週間位で根治する妙がある。

それで日本藥局方には大黃丸、大黃浸、大黃越幾斯、大黃酸、大黃舍利別、大黃丁幾等に製劑され醫師は常に之を處方に用ゐてゐる。

大黃栽培の有利なことは、今日の用途はまだ完全には其効用を盡してゐるのではなく幾多新藥の材料となり又研究されつゝある有様で、將來益々有望な點である。

殊に従來は支那産の大黃が歐米藥劑市場に覇を握り殆ど獨占する處であつたが、之は決して支那産のみが優良といふ譯ではなく、商略に機敏な支那人の所謂商賣上手と我邦人が進んで彼れと競争するだけの着眼が無かつたので、將來此栽培が盛になり産出額を激増すると同時に内國にも海外にも販路を擴張して行かなければならぬのである。

利殖の着眼によつては、あらゆる方面に人の氣附かぬ遺利を發見するものであるが大黃栽培の如きは確かに此遺利を收穫すること、野生にさへ全國到處に播殖してゐるのであるから、人工を加へ優良種を盛んに産出したいものだ。

因に總て藥草の販賣方に就ては、東京にては日本橋區本町、大阪にては東區道修町に何れも藥種商同業組合事務所があるから直接交渉されたい。

◆薄荷 (はつか)

薄荷は一名『メグサ』ともいひ、宿根草で特異の香氣がある。此植物の原産地は日本で現今でも山形縣、廣島縣下等には野生のものが夥しくある。併しこれを日本人が人工栽培をするやうになつたのは今から六十年ほど以前で、英國獨逸米國支那等から見れば遙かに後れてゐる。そして今日海外に於ける競争の相手は當り北米産があるのみであるが我邦のは品質に於て

最も優良なのである。その爲に北米では日本から盛んに輸入してそれを自國産のものと混製し歐洲諸國に之を輸出してゐる現況である。現今は歐洲戰爭で傷病兵に盛んに用ゐられるから、北米からの薄荷輸出は素晴らしい景氣だといふ。

それで北米市場で賣買される日本産薄荷一封度の價格は

日本産薄荷	一 封 度	金 六 圓
北米産同上	同 上	金 三 圓

の割合で日本産で倍額の好況を示してゐる。かういふ風に我邦の薄荷は世界に冠絶して居り、殊に薄荷の需要は藥品及香料であるから、文明の進むに伴ひ將來益需要を激増すべき事は好個貨殖家の着眼點といはねばならぬ。

栽培法 薄荷は宿根草で花は咲いても實を結ばないから實生は出來ない

只宿根の分植に由つて栽培するのである。種類は赤丸種と青丸種とあるが赤丸が最良とせられてゐる。

植付法 定植すべき本圃は能く耕して畦間は一尺七八寸若くは二尺となる植附法に二通りあつて、一つは薄く一本宛並べ透間無く植わる遣方と、一つは株間三四寸あけて一株に三四本づゝ寄せ植にする。その何れが好いといふ事もないが、山形縣北海道等は前者を採用し、現今多額に産する廣島縣岡山縣等では後者の植附法を用ひてゐる植附時は春秋何れでも好い。

施肥法 薄荷は主として葉の肥大充實を計るべきで、それに適當なる肥料は、綿實、粕、魚類、粕、蠶糞及蠶蛹、粕等で、此等は磷酸と加里とを適度に含んだ絶好肥料である。これを春秋植附時に元肥として畦下に散らして置き、直接に根に觸れぬやうに土を盛つて遮りその上に苗を植わる追肥は發芽を待つて施すべく、七月頃一番刈の刈込期迄に四五回前期の肥

料又は人糞尿を水肥として與へるが好い。刈込が終れば又一回施し、第二回目刈込迄に尙ほ二回、又第三回刈込迄に同様施肥を繰返す。

刈込時 は東北地方なら夏土用に一番刈、秋土用に二番刈といふ風であるが、關西地方現に廣島、岡山縣等では六月中旬、八月中旬、十月中旬と三回到收穫する。此刈込に適當な時期は葉の色に黄色い線を現はし莖が堅くなつたときに一番刈をする、それから二番三番も同様に葉色と莖に注意する事で、又蕾が花を開かぬ以前に刈込む事が肝要である。刈取つたらば速かに屋内に運び、一握りづゝ互ひ違ひに繩にて簾のやうに編んで軒下に吊るし陰干にすると夏は約十日、秋は約三十日間で乾燥して了ふ。

貯藏法 收穫期節には中買人が現今の産地に買出しに来るが、相場の思惑等で貯藏して置く場合には、極めて風通しを好くし、濕氣の無い場所に保存して、少しも微を生やさぬやうに注意せねばならない。

収益 收穫量は乾葉で一反から一番刈三十貫、二番刈七十貫、三番刈百貫が普通で合計二百貫、これを今日の十貫六圓相場に代へると百二十圓になつて、此内から肥料代、勞働費地代等二十圓と見積りて控除しても、百圓の純益があるわけである。但し今日の十貫六圓といふ相場は、歐洲戦争の影響で昂騰してゐるので、平時は普通四圓と見るを穩當とすべきであるが、將來需要は殖るばかりであるから十貫四圓相場が崩れるやうな事は無いと見なければならぬ。因に薄荷油は乾葉にして水に和し、これを蒸溜し更らに冷却して固形分を除去した揮發油なのである。

薬効 は非常に範圍が廣く、興奮劑、健胃劑、神經痛、齒痛、リウマチス等に用ひられ、其他内外用として種々用ひられてゐる。

◆甘草 (カンザウ)

甘草は太古時代から薬用に供せられ西班牙、小亞細亞地方で最も多く栽培された。日本でも古代から野生のものがあり貴重薬草として、陸奥、出羽及び常陸から毎年朝廷に貢物とした事が延喜式に記載されてゐる。然るに野生のものは中古から近代にかけて無闇に掘り取られて今日では殆んど出野に自然生のもので、支那から輸入して最近栽培するやうになつた。

現今我邦の藥草問屋(東京では日本橋本石町伊勢町一帯、大阪では東區道修町一圓)に見る甘草は支那産のものが殆ど全部といつて好い。併し前記の如く日本でも古來産出したので、書物にも種々説明されて居る。本草綱目に『春青苗を生じ枝葉は槐の如く高さ五六尺、葉端微に尖りて粗く白毛なるに似たり、七月紫花を開き、杏に似て各實を結ぶ。種子は扁平く小豆の如く極めて堅くして噛めども破れず、根の長さ三四尺、粗細定まらず皮赤く上に横枝あり枝下皆細根なり。』云々

甘草は熱帯及び極寒帯の外は何處でも成育する、土質は砂混りの沃土を

第一とし多濕土、重粘土等を除けば大抵の土壤に通ず、蕃殖には走り根及び種子を以てし、先づ種子とすれば秋彼岸に冷床を設けて種子を薄く條播し、發芽して生長二三寸になれば、人糞尿を汚水三倍を以て薄めたものを條と條との明き間毎に置き、翌春冷床を増加して、苗は従來の條幅を二倍に廣げて今度は床の長い方へ條を立て、五六寸を隔て、一本づゝ植ねる。此の年の冬までに數回人糞尿、油粕蠶糞、その他何種の肥料でも好いから有合せの肥料を施し、同時に怠らず中耕と除草とを行ふ。滿一ヶ年半は此床で育て、播種した翌年の秋に本圃を定め精耕して幅二尺の畦を作り、一反につき堆肥二百五十貫、人糞二十荷、草木灰を元肥として施し、株間を二尺にとり一本づゝ定植し、春秋に各二回づゝ人糞尿又は油粕を根際を離して施し、その度毎に中耕、除草を行ひ、四年目に收穫し、根及び走り根を能く洗ひ市場に出す。此收支計算を示せば、

△支出の部

金八十八圓五十錢	總 支 出
内譯金三十圓	三年間借地料
金五 圓	種子五合代金
金二圓五十錢	苗 床 經 費
金二十圓	肥 料
(堆肥二百五十貫人糞尿二十荷灰油粕過磷酸石灰等)	人 夫 雇 料
金廿八圓	(男女三十二人賃一人五十錢平均)耕耘三人整地五人施肥四人除草
中耕收穫共二十人植附五人	
金三 圓	農具材料及び雜費
△收入の部	

金三百十圓

内譯金二百五十圓

金六十圓

差引金二百二十一圓五十錢

總 收 入

根莖五百斤賣代

走根二百斤賣代

純 益

十錢。

備考最初一年は何の世話もないので平均し一年の純益金七十三圓八

甘草根の藥効は内用には緩和劑、矯味劑とし、其他種々の藥品と合劑して製される。極手近い例は根を細末にして水五合を三合に煎じつめ、此の煎藥一合に水五合を加へ、一日四五回の含嗽をすれば、大抵の咽喉の不加減は一週間で治る。又寒中右の煎藥として常用すれば貧血の人や寒がりの人は暖かに過すことが出来る。

甘草細末十五分、セロナ葉細末十五分、茴香末十分、精製硫黃十分、白

砂糖五十分をよく混和して、復方甘草散が出来る。これは緩和なる瀉下劑として虚弱者及び小兒に用ひ、一日二三回大人は小匙一杯、小兒には小刀の尖に乗る位を六七倍の水に攪和して與へ歐洲では民間藥として愛用されてゐるもの、但しこの散藥は濕氣を吸ひ易いから密栓して貯へねばならぬ。

その外甘草蒸として製劑され、日本藥局方には甘草越幾斯の方箋が規定されて居り、氣管支加答兒に對し咳嗽の刺戟を緩和する目的に用ひられて居る。

以上の外に、今日藥草として需用の多いものは、

除蟲菊、チキタリス、罌粟、黃連、絲瓜、蕃椒、蕃茄(トマト)、龍膽、
纈草、ヒヨス

等々の他藥草全体に亘つては、非常に多數に上りますが、右に掲げた十

種の藥草栽培に就いては、本社（貨殖新聞）第十一號（大正七年九月十五日發行）以下連載いたし、第三十號（大正八年七月二十五日發行）に亘つて居りますので、藥草栽培家は是非參考資料として一讀を煩はしたいものです。

第三、應用經濟編

【一】家政の研究

廣い意味からいふと、經濟といふ事は富を作り上げることで、それが自分のものでも、或は他人のものでも、自他に關した事ではないのであります。兎に角世の中の富が殖ねればそれで好いのであります。家政經濟になると、それでは濟まされない。

隣家の家政が如何にゆたかであつても、自分の家が貧乏では致方がない世間には成金といふ連中が澤山出來て、一部は素晴らしい景氣であつてもそんな事は自家の家政からみればどうでもよいことです。まだ家族の中でも誰か一人富んでゐたところが、一家族全体がその富にあづからねば何の役

▽財布を
大切に
せよ

にも立たない。それで一人々別々に金を持つて居る必要はないけれども五人なら五人の家族に對する生活の資を給すべき一大家族一團として、金が必要なら金、なければならぬので、その所有主は主人であつてもよろしければ、また主婦であつても差支無いのであります。

然らば如何にして富裕になるかといふに、勿論儲けるのが一番であるが只儲けただけではいけない、その儲けた金を巧みに切り盛りして、上手に使いこなし、そして富を築き上げて行くのでなければならぬので、一言にしていへば儲けた金を活かして使ふのが家政經濟の根抵であり、基礎を爲すものであります。

嘗つて一代に巨萬の富を爲した某老富豪が、人に致富の要訣を問はれて『それは一言に盡せば、財布を大切にせよといふそれだけである。』と答へ質問者に向つて、『そこで財布の中に現金がいくらはいつてゐるか、一銭や

五厘の端數まで常に明瞭に覺て居ねばならぬので、いつも財布の中を大切に數へておればさう金を無駄遣ひをせず、また減多に減るものでもない。そして貴下は今財布の中にいくら持つて居られるか。』

と却つて反問しました。すると質問者は何圓位とまでは記憶してゐるが端數までは明かでないので、自分の財布の中の金高を明言する事が出来ないのであります。そこで老富豪は言葉をついで、

『貴下に限つた事ではない、大抵の人が皆さうしたもので、少しの間は覺えてゐやうが、二三品の買物でもすると最早はつきりわからなくなつて居ります。それから財布は必ず丁寧に服紗に包んで置かねばなりません、今の若い人などがバラ銭のまゝで洋服のポケットなどに入れたりして居るが、あれなどは最も戒しむべき事です。あれではどうしても金の有難味がなくなり、之を大切に取扱ふといふ習慣を養ふことが出来ません。矢張り

て家政を治めて行く事は主要の問題で、そして此家政が治まるか治まらな
いかによつて一家の興廢貧富が分れるのであります。

一方にどんなに致富殖策を講じて、一方に家政が治らなければ宛も
窟に水を汲み込むやうなものでいくら汲み込んでも汲み込んでも、その勞
力は何等の効を奏しない、又古來男は外に出で、働き、女は内に居つて守
るといふやうにいはいはれ、家政家事の問題といへば主として婦人の職分のや
うであるけれども、家庭は男女即ち夫と妻とによつて營まれるものである
から、家政の事も男女共通の研究問題である事を忘れてはならない。

併し特に家政に於ては婦人が主としてその任に當らねばならぬもので、
苟くも一家の主婦たる者は家政上に最善の力を盡さねばならないので、例
へば政府でも銀行會社でも、重要な職務には皆それ／＼女房役といふもの
が附いて居る、某大臣には某次官、若くは某局長が女房役であるとか、某

面倒でも一々懐ろの奥から出し、剩錢などは丁寧にしらべて財布に納めね
ばならない。そしていくらか持つてゐるところを幾何使つたから、後にいく
ら残つてゐるといふ事を、キッチンと頭に刻んで置くことです。』

と諒々として語つたのであります。由來、富を爲した人々の金錢の取扱
ひ振りに就いて注意して見れば、必ずこの老富豪のいつたやうに一々丁寧
に取扱ふものです。併しいくら大切に取扱つても、費はるだけは費はるち
やないかといふやうな人は、まだ／＼金錢觀念に徹底して居らず、金を作
る呼吸を會得せぬ人なのであります。

この意味からいふと金錢の取扱ひは、どこまでも嚴重にしなければなら
ないので、一々推し戴かないでもよいが、推し戴くくらの心持がなければ
なりません。

そこで、大きいいへば國家に財政問題が大切であると同様に一家にとつ

社長に某秘書役、某頭取に常務取締役が女房役といふやうに、女房役は種々肝要な任務を盡すのである、是は一家に女房の必要な事から譬へたのであつて、かういふ譬に引かれるほどであるから本當の女房、即ち家庭の主婦は餘程家政の役に立たねばならぬ筈である、此の主婦が家政の重任を負ふ上に、精神的方面と物質的方面即ち家政經濟との別があつて本章には主として後者の家政經濟に就いて述べるのであるが、今簡略に精神的方面を一言すれば、主婦は所謂内助の功勞を盡さねばならない。一家の主人が或は官吏であるとか銀行會社員であるとか或は商人、農學家であるとか職業は種々であつて、その各々の男子が自己の職業を向上發展せしめ興隆繁盛にして行く上には全くその當事者の男子の力のみである如くに見れば婦人は一見關知しないやうに思はれるけれども、此の關係は一層複雑して居つて矢張り主人の業務の興廢には大いに主婦の力が與つて居り、そこが家庭に於

▽内助と内妨

ける微妙な配合なのである。そして此の主婦の力を内助の功勞といふのであるがこれが主婦の精神一つで内助と内妨との分岐點となり、立派に内助の功を盡すと反對に内妨となつては一家を過るものは全く主婦の責任といはねばならない。これは如何なる家庭でも注意すべき事で、表立つて邪魔になる事が尠いにしても、良人が仕事をしてゐるのに何か家の事が氣にかゝり、或は不愉快に感じたりするのは尠からぬ邪魔になる、家が面白くないので仕事に張合の無いやうになる事は珍らしくない、それで内助といふのは良人の働いて疲れたところ、或は問題が決せずして煩悶する折など、そこに何等か慰めを與へ得るのが、一つの重なるものなのである。人は働いて後に休み、晝は起きて夜は眠る如く、一家の主人にとつて家庭は一日の休養所として主婦の心遣ひで待ち受けて居るやうでなければならぬ。以上は家政に於ける精神上の方面を一言したに過ぎないが、次に物質的

方面として家政經濟の執り方を述べる順序であります。尤も此家政經濟も今日我邦に行はれて來た衣食住に相應して工夫せねばならぬ事で、殊にその家々に準じて家政を治めねばならない、歐米の家庭に見るが如き理想的家政經濟はまだ今日我邦の實情に直ちに當て符めやうとすれば必ず新舊思想の衝突が起り、却つて一家の圓滿を破り福を轉じて災となす虞があるから、此點は十分注意して所謂女の淺智慧の罵りを免れる心掛が必要である、現在我邦の家庭の有様は一方に文明的な所があるかと思へば、一方に原始的な所があつて封建時代そのまゝの設備や習慣が何の改良も加へられずに行はれてゐる、例へば都會地で電燈や瓦斯や水道まで文明的の設備の整つて居る一面には、糠味噌の果にまで手を附けなくてはならなかつたり、其他朝から晩まで働いても主婦の仕事の切れ間がないといふ状態であるからこれを如何にしたならば家政を十分文明的に、主婦の無駄骨

▽積極的
家政

折を省き、少くとも家政經濟に積極的な貨殖致富法を講じやうとするには婦人自身でそれらの家庭の事情に應じて研究を重ね自らその方法を發見して行かねばならない、それであるから本講座に於て以下述べるところのものも各家庭の事情によつて種々取捨選擇しこれを參考としてそれ／＼工夫して貰ひたいのである。

斯くて夫々の家庭に改善が出來たならば、所謂家政經濟には、積極的家政が行はれ、婦人の家庭副業の如きを一層擴大して致富貨殖の方策をも講ずる事になるのであるが、それは今日の我邦の家庭では如何なる家にも望み得べき事ではなく、家政經濟は主として消極的方面に止る事は已むを得ない。

吾人は此點に就いて婦人が家事家政を執る間にも、儉約とか質素とか無駄を省いて少しづつ貯金だけに満足するとかいふ消極的方面のみでなく

進んで利殖機關の必要を稱ふるものであるが、さういふ方法が大組織で公共的社會的に企劃される時代も遠からぬ將來と信するものである、併し今日の場合は家政經濟の根本は無駄を省略するに在るといふ事が世故に通じた識者の言であつて、吾人は亦暫らく此方面から研究の歩を進めたいと思ふ。

そこで此無駄といふ點から今日の家庭で代表的無駄なものを挙げれば第一に服裝に贅を盡す點であるが、殊に婦人の帯などは無駄の代表的なものといつてよからう。どんなに安くても六七圓乃至十圓もするし、高いものになると切りが無く、中には千圓も二千圓も投じたものを只腰の廻りにぐるぐると巻きつけておくといふに到つては驚かざるを得ない、勿論婦人が美容を整ふる事には吾人と雖も反對するほど野暮ではないが、之れにも何とか工夫をして前と後ろと見ゆる所だけに好い織物を使ふといふやうな事

も出来さうであるし、若し一般に帯の仕立方が恠ういふ風に改良されたならば恐らくは現在の三分の一以下の價で美容の目的が達せられると思ふ、殊に少女の帯などは外で解くやうな場合が少いのであるから、母たる人の家政經濟思想は今日直ちに實行して節約の實を擧げる事が出来る筈であるそれは一例に過ぎないが、近來無駄の甚だしくなつたのは結婚披露と葬儀とです。

今日のやうに大袈裟な贅澤な結婚披露は新郎新婦の前途を祝するのではなく、却て呪ふやうな場合が少くない、或成金の結婚披露に一夕萬金を擲つて惜しまず、新郎新婦は衆人羨望の的となつたが、焉ぞ知らん披露の翌日花嫁が離縁になつたといふやうな悲喜劇もある、併し目出度い結婚の場合とは別としても、最も悲しむべき葬儀に於ても今日は恐ろしく華美を競つて宛然何か廣告の行列のやうに練り歩くなどは實に心ある者を憂縮せしむ

るもので、此等(これら)は一日(いちにち)も早く改善(かいぜん)し、結婚(けつこん)には記念(きねん)の植樹(しょくじゆ)とか金(かね)のあるものは田畑(たはた)を買(か)ふとか、葬儀(そうぎ)の場合(ばあひ)も眞(まこと)に故人(こじん)の死(し)を意義(いぎ)深く記念(きねん)すべき有益(えき)な方法(ほうほう)はいくらもあると思(おも)ふ、それから無駄(むだ)の多い(おほ)のは、買物(かひもの)の仕方(しかた)で日用品(にちようひん)の買(か)ひ方(かた)につき、今日(こんにち)の家庭(かてい)は大(だい)なる無駄(むだ)をして居(ゐ)る、町(まち)や都會(とかい)生活(せいかつ)の者(もの)は家(いえ)に坐(すわ)つて居(ゐ)つて、出入(でいりせうにん)商人(しやうじん)の手(て)で届(とど)けさせることなどは、西洋(せいやう)などでは如何(いか)なる金満家(きんまんか)でもやらない、必ず主婦(かみゆ)が買出(かひだ)しに行く(ゆ)く、中には富豪(ふがう)の主婦(しゆふ)が下婢(かひ)を同乗(どうじやう)させ自動車(じどうしや)で公設市場(こうせつしやう)に行く(ゆ)くといふ風(ふう)で、尤(もつと)も日本(ほん)ではまだ公設市場(こうせつしやう)の設備(せつび)が殆ど絶無(ぜつむ)に等(ひき)しい不完全(ふかんぜん)であるからではあるが、併(しか)し家庭(かてい)は家庭(かてい)として應急策(おうきよさく)があるのである、出入(でいりせうにん)商人(しやうじん)から買(か)へばごれだけの損(そん)があるかといふに、第一(だいいち)は値段(ねだん)が高(たか)く、次に御用(ごよう)を聞き(き)に来て品物(しなもの)を届(とど)けるだけの手間代(てまんだい)は無(む)論(ろん)品物(しなもの)の代價(だいか)のうち(うち)にチャンと加算(かさん)されてある、猶(なほ)その上(うへ)に掛買(かひかひ)をすれば、商人(せうにん)の方(はう)では掛倒(かくだよ)れのあつたときの損害(そんがい)

を補(おぎな)ふために一般(はん)の得意先(とくいさき)から少(すこ)しづ、値段(ねだん)の上(うへ)でとつてゐるから、買手(かひて)の方(はう)では買倒(かひだよ)しの人の分(ぶん)まで負擔(ふたん)するわけになつて無駄(むだ)の骨頂(こつてう)である。次に高(たか)い品物(しなもの)を買(か)つて質(しつ)が悪(わる)いのである、商人(せうにん)の方(はう)では品物(しなもの)の悪(わる)いものから賣(う)り捌(は)かうとして、御用(ごよう)聞き(き)に廻(まは)るところなどはどうしても悪(わる)い品物(しなもの)を届(とど)ける事(こと)になる、併(しか)し近頃(ちかごろ)は物價騰貴(ぶつかとうき)の影響(へいけう)や何(なに)やかで、どんな平凡(へいぼん)な主婦(しゆふ)でも掛買(かひかひ)をするやうな事は餘程(よほど)減(へ)つた事(こと)とは思(おも)はれるが、同(おな)じ現金(げんきん)買(か)ひにしてもその買方(かひかた)の上手(せうず)下手(へた)によつて少(すく)な損益(そんえき)の差額(さがく)がある、例(たと)へば如何(いか)なる家(いえ)でも一ヶ月(いっかげつ)の家計豫算(かけいよさん)を立て、見(み)ると、先(ま)づ第一(だいいち)に必要な(ひつやう)のは主食物(しゆじよくぶつ)として米(こめ)で第二(だいに)は調味料(てうみりょう)として、味噌(みそ)、醬油(せうゆ)、砂糖(さとう)等で、かういふ必需品(ひつじゆひん)はどの道(みち)一定(てい)の量(りやう)は必ず要(い)るものであるから、現金買(げんきんか)ひとはいひ、必要(ひつやう)に應(たう)じて少(すこ)しづ、買(か)ふといふ遣方(やりかた)は非常(ひじょう)に損(そん)である。早(はや)い話(はなし)が砂糖(さとう)などは百目買(ひゃくめか)ふと十五錢(せんじか)の時價(じか)の引例(いんれい)に過(す)ぎずするものなれば、五百目

とまとめて買へば六十六錢で買はれ、實に九錢の差額を益する事が出来る併し百日を増す毎に此の割合で安く買はれるかといへば、さうはいかない普通四百目迄は百日と同じ割合で四百目六十錢につく割合である。又その反對に五百目以上澤山まとめて買つたら特に割引率が多いかと調べて見るとこれまたさうはいかない。一貫目買ひは一圓卅二錢といふ事で、五百目買ふのも一貫目買ふのも、同じ割合になる、されば普通の家庭にあつては五百目づゝ現金買ひをする事が最も利益であるといふ結論を得らるゝわけでありませう。

それから以上調味料の外にも、茶とか煙草、化粧品、紙類、洗濯石鹼、マッチ等もそれ〴〵家庭で一通りは必ず要ぬのであるから、これらも適當なだけ適當な時に買つて置くのがよろしい、これら必要品を月の初めの日に買つて置く事は最も經濟的である、例へば一個の石鹼は幾日使へる

か、何ほどのくらゐ要るかといふ家政上の見當がつく、一体普通の家計で買ひたいものを數へれば數限りも無くあるが、若しこれを金の有る時有るなりに買物をすれば、つい一番必要なものがあとになり、左ほど急を要せぬものを早く買ふといふやうな結果になつて、さうすると結局どんな工面をしても必要なものは新たに買はねばならなくなり、非常な不經濟になるそしてこんな風にしてゐれば定めて貯金をする筈のお金もなくなつて了ひ僅かな貯金さへも出来なくなつてしまふ、それであるからさうせ買はなくてならぬものは前述の如く適當な時期と、一番割安に買へる分量とを考へてみて、初めから買ひ調べておくのが最もよろしい方法である。

さうすれば一月の家計は月末でなく月の初めに計算が立つて、あとはほんどうの小遣錢を残しておけばよいわけで、それらに費した残りはそのまゝ貯金に廻す事が出来る、次に曩にも述べたやうにいろ〴〵家庭の事情が

あつて、現金買ひは出来ず、掛買をしなければならぬ家庭であれば必ず當方にも控帳を作つておき、毎日それに買物をつけて置き、その仕拂ひは月末にするにしても、その間に一週間なり二週間なりの後には必ず小計をとつて見る必要がある、そして若し前の一週間なり半月なりが割合に餘計買ひ物をしたと思はれる時には、あとの一週間乃至半月はよく注意して一層經濟をはかり、月末仕拂ひの嵩まぬやう警戒する、場合によつて魚屋の通帳につけ高が多いと思へばその警戒期間は出来るだけこれを節約して、豆腐なり野菜なり何か安價なもので且つ現金買ひをして間に合せるやうにして置くのも一法である、何も別段に贅澤をするやうでなくとも、魚屋や八百屋の通帳が、月末になつて一二圓違ふのはよくある事で、これを家政の利益に仕向けるためには、どうしても右にいつた通り、時々小計をとつてそれによつて主婦の打算的心掛けを作る必要なのである、これと

同じ理由で、月末の覺として、收支はどんな細かい部分までも記入し、一見して解り易くして置く事、そして若しも多額の支出があつたり、出入商人に前借になるやうな場合には、翌月中にこれを埋め合せるやう確乎たる覺悟と實行とが必要である。また此處で出入商人に前借といつたがこれは必ずしも他人に借財をする意味でなく、手をつけてはならないと定めてあるお金に手をつけたり、外に何かの費用として残しておいたお金を使つたり、貯金を引出したりする場合も皆同様で、かういふ借金についてはどんなに家計を切りつめても、必ず翌月中にとりかへしをつけねばならないのであります。

以上は如何なる家庭にも共通する點を擇び、家政經濟の一例として擧げたに過ぎないが、前にもいふ通り各その家庭の事情によつて工夫をせねばならぬ事であるから、具体的に一々詳述する必要は無いと思ふ、たゞ今日

の場合我邦の家庭及び社會狀況が、眞に積極的な家政經濟の實績を擧ぐる術がないのを遺憾とする次第であるが、假令消極的にもせよ、有るは尙ほ無きに増るのであるから、出来るだけの節約をして許される限りの貯金等は今日如何なる家庭の主婦でも考へ、それを實行して貰ひたいものです。

【二】 廢物利用法

凡そ物の利用といふ事は二つに別けて考へる事が出来る、即ち一つは物の利用で他の一つは廢物の利用であります。それで此二つの利用を講じてこそ初めて物が完全に利用され毫も無駄といふもの無しに物の役目を完了した事になる。ところが廢物でない用物の利用は普通如何なる家庭にも行はれるが廢物は之をそのまま、不用物として顧みない。

併し乍ら廢物は不用物とは違つて、従來用ゐられてゐた用物が廢物となりその廢物が利用されて最早全く利用の途の無くなつた物が初めて不用物となるので、實際不用物といふ物は極めて尠い筈である。まだ工夫をすればいくらでも物を生かして使ふ事が出来るのを、そのまま、不用物として棄て了ふのは昔から「天物を暴殄す」といつて天然自然の配劑で世の中に生じ

て来た用物を人間の淺智慧の爲に亂暴にも死物にして、了つてはならぬと警めて居る。嘗て本社ほんしゃの貨殖新報くわしよくしんぱんに『智者河村瑞賢』の事を述べてあつたが瑞賢すんけんの如きは廢物利用の驚くべき獨創力どくさうりきよくを持て居た人で、何を見ても無用の物が無く之を直に利用する事を得た。

初め孟蘭盆ぼんぼんに棄て、ある茄子なすを拾ひ集めて之を鹽漬しほづけにして賣廣めたので資本しほんを作り、次から次へと世人せいじんの棄て、不用物としたものを利用し用物として働かせて、遂に巨萬きよまんの富を作るやうになつた。また『淺野總一郎』が横濱瓦斯局よこはまがすきよくで棄て、顧みなかつた石炭乾溜せきたんかんりゆう後のコールドターを利用して巨利きよりを占めた如きも、最も有益な廢物利用であつた。

今日歐米文明國こんにちちゆうべいぶんめいこくでは夫々大規模に廢物利用が講せられてゐるが今から一世紀せいせきを溯つた十九世紀末せいせきまつすなは即ち八十年前迄は彼の英國へいこくの如きも、石炭せきたんコールドターの仕末しまつに困つて、全く厄介物扱やくかいものあつかびを爲し海に流して居つたのは、今日

から見れば嘘うそのやうな事實じじつであつた。けれども科學の進歩しんぽと共に、コールドターの利用法りようはふが種々研究しゆくけんきうされ、その染料せんりやうとして發明はつめいされ製出せいしゆつされてゐるだけでも實じつに六千餘種よしゆ（工學博士西田博太郎氏調査）に上つて居るといふ驚くべき廢物利用の能率のうりつを示して居る有様ありさまであります。それ故に科學の智識ちしきが益々進んで行く上には、世の中よなかの一つとして不用物ふようぶつといふものは無い事にならう。只殘念ただざんねん乍ら吾々が十分に廢物利用を講じ得ぬのは、宛かも猫ねこに小判こばんを與へ豚ぶたに眞珠しんじゆを與へても彼等無智かれらむちの動物どうぶつには何等の價値かちも無いと同様どうやう吾々の目の前めまへにはまだ、吾々の氣附きづかぬ廢物利用の途みちが數かずへされぬはごあるに相違さうみ無い。

昔むかしの人に鞆ぶたと落つる瀧たきや矢やの如き急湍きふたんを爲す谷川たにがはの水は觀賞かんせうといふ事を取去れば何等人間生活なんらにんげんせいかつに交渉かうせふの無い不用物ふようぶつであつたでせう。然るに今日こんにちではその水力すいりきくが目に見ぬ電氣でんきの力ちからとなり、電力でんりきは更に機械きかいを動かす原動げんどう

力となり、機械力がまだ他のいろ／＼の力を導き出すといふ風に世の中にありとあらゆる物質は人間の智識が進んでこれを利用するまゝにそれからそれと形を變へ名を變へて何處迄行つても限り無く働いて窮極する所が無い傾向を表して居る。恚うした科學的智識の進歩により、物質の勢力を應用し大規模に生産能率を増進する事が廢物利用の意義であつて、眞の廢物利用法は飽迄積極的に生産の増加を圖る點にあるが、今日の場合まだそれは將來の理想に止つて、普通の家庭にとつて廢物利用といふ事は、何物をも無駄にせぬやう物質の節約を圖る消極的經濟といふ事になる。斯く廢物利用の意義を狭め、物質の節約を圖り何物をも無駄にせぬ様にする事あるとして、今日我邦の家庭に當て箝めて考へて見ればどうであるか、事々物々總てに亘つて今日我邦の家庭はご無駄多き生活をしてゐる事は、世界廣しと雖も他國に見られない状態である。例へば先づ吾々の身の周圍に就い

て見るならば少し社會的に活動する身分になれば男子は洋服と和服とを各々持つて居らねばならず、それも平素着だけでは用が足りないので外出着や別に禮装を而も夏冬とも各々一揃ひは備へねばならない。又履物でも下駄と靴が要るし、雨具には和洋の外套、雨傘と洋傘が要る。食器にしても日本料理の外に洋食の道具類も備へて置き、煎茶道具の外に珈琲道具の一通り位は大抵の家庭に用意して置かねばならないといふやうなのが、今日我邦の家庭の有様である。かういふ家庭の有様は全く無駄のみ多く且つ贅澤な極みであるがこの贅澤や無駄を當然の事と思ふほごに、我々の家庭は不經濟な生活に慣れてしまつて居る。甞り家庭ばかりでなく、將來第二の家庭の主婦たるべき女子を教育する女學校の如きも、家庭には殆ど用の無い花鳥の刺繡の稽古をさせたり、實用には少しも役に立たぬ洋食の料理法を教へたり其他種々無駄

に時間と努力を費して居るが、そんな事よりも大抵の家庭には是非とも必要な襟飾。半襟、手絡のやうなものを作り方とか、洋食の代りに上手な御飯炊の稽古、或は外國米の炊方などを練習した方が、その位利益であるか解らない。斯く一般に無駄に無駄の多い生活が今日我邦の状態であつて見れば、廢物利用の如き智識を普及し、總てに就いて物資の節約を講じなければならぬのである。歐米諸國に比ぶれば我邦は物質文明が遙に後れて發達した結果、未だ歐米人のやうな激烈な生存競争、生活難は經驗して居らない。

然るに歐米人は一般に所謂世智辛く世を渡つて來たので家庭生活に自然と無駄が少いやうになつて來て居る。それでも尙は無駄が多いといつて、頻に物の利用法を攻究してゐるので例へば家庭の主婦が牛肉を買ふにしてもなるべく安く買入れる工夫をして大抵一週間分を買ひ、之をいろいろ献

立して料理に使ひ、最後の日には切出しの屑を鶏卵とちにして少しも無駄を出さないといふ風に一事が萬事この調子である。ところが我邦では近頃廢物利用といふ事が餘程注意され、先般は大阪市清水谷女學校で廢物利用品の展覽會を開き、又東京では教育博物館で同様の展覽會と講演とが企てられたといふ風になつて來たが、悲しいかな歐米人のやうに激烈な生活難から眞剣に利用されたものが尠く稍もすれば廢物利用の精神を取り違へ、却つて經濟に反した無益の努力を以て廢物利用の物真似などをしてゐる傾向がある。例へば二寸三寸といふ小布を丹念に接ぎはぎして座蒲團を作つたり胴着のやうなものを作つてゐるのがある。これなどは物を粗末にせぬといふ意味からいへば甚だ結構な事で、またその根氣には感心するが、さてその出來上つた物の價值が費やされた努力に副だけのものであるや否やといふ事になれば、これは考へもので、若しこれに費やしただけの努力

を何か外の物のために費やしたならば、或は二倍三倍の効果を擧げる事が出来る筈に思はれる。

それでかういふ遣り方は物を粗末にせず且つ幾分廢物を利用したやうに見ゆるが、一方に於て時間を無駄にして居るから差引却つて不經濟になつて居る。

『時は金なり』といふことが致富貨殖の眞理である事は何人も否まぬところで、時間を無駄に費やしての廢物利用は利用で無くて、害用悪用無用といはねばならない。それであるから今日我邦の家庭に最も必要な問題は何物をも無駄にせず物資の節約を圖る事で、いろいろの物に工夫を加へて廢物利用を實行するにしても、そこで第一に思案すべきは費用及び勞力の關係である。随分面白い思ひつきがあつても多く費用がかゝり、勞力を多く要するやうな事では廢物利用の趣旨に叶はない。それから費用の上には誰

しも直ぐ氣がつくが勞力を勘定に入れないのが珍らしくないので、例へば古葉書を一枚々と折つて五六十枚を集めて簽敷を作るといふやうな事は考へるもので、多く勞力を費やして出來上つたところの物は、荒物店から買つて來るよりも損になるやうでは何にもならぬ。人間の勞力は限りがあるものであるから、常に有用に使はねばならないので、有用に勞力を使ふ者が最も賢いのである。

それを勞力を勘定に入らずして頻に工夫して辛と出來たものが、不經濟な玩具のやうなものでは廢物利用ではない。廢物が全然不用物となるのは費用と勞力が多きに過ぎて到底經濟的利益を打算する事が出來ない場合で殊に今日我邦の家庭状態では思ひ切つて廢物を不用物に附する事は已むを得ない、或は却てさうした方が利益である事に注意をしないと、前述のやうな不經濟な廢物利用を試みたりするのである。此の家庭で不用物として

了つた廢物は社會がこれを利用して行く方法を講じなければならぬ。例へば襪褸屑、紙屑とか、硝子の破片とか古金といったやうな各家庭では全く不用物でどうにも利用の方法はつかないが、今日我邦に於てもそれらの廢物は種々製造工業の原料として用ゐられ、廢物は形を變へ呼名が替つて用物となつて表れて来る。例へば襪褸屑の如きものでも、その品質によつて幾通りにも分類され、それ／＼專業者の手に渡り需要者に供給され、それが又それ／＼製造工業の原料に供給されるので、面白いことにはその襪褸屑が紙や人造絹絲や、セルロイドなどの原料に供給される以前に、紺切などは先づ以て染料業者の手に渡り、そこで黒染料のインデゴを抜き取りて染料を作る役目を終つてから、更に紙や人造絹絲やセルロイドなど形を變へて二度の勤めをするのである。さて我邦今日の場合は世界大戰の影響を受けて國産の奨励は一日も忽に出来ない、工業原料の自給は勿論、

近くは食料問題まで國民の考慮を要する事となつたのである。それで一方には進んで生産業の改善を圖り原料品も製造品もその産額を増加して行く積極的施設は勿論目下の急務であるけれども、一方には物資の節約に努めるといふ消極的方面も決して忘れる事は出来ない。この物資の節約は國民が自給自足の上に必要なものであるばかりで無く、その節約によつて剩し得た生産品は少しでも餘計に海外に輸出して、國家の富を増加して行く事を圖らねばならぬのである。然るに一般に生活難を唱へて居るに拘らず、家庭生活の實際を見ると、前に述べた如く我邦の家庭では世界第一の無駄な生活をしてゐる有様で、此處は國民各々が餘程しつかりせねばならぬ點である。先般外國米の廉賣が行はれた場合の如きも、盛んに生活難を唱へ甚たしきは食料難を訴へて居つた場合にも拘らず、外米は到底喰はれないといつて一向豫期の如く買手が無く、一升二十五錢から二十錢に引下げ更に十五錢

に引下げ、更に十銭に引下げても遂に東京大阪の如き都會地では賣盡す事が出来なかつたといふ状態で、如何に我邦の家庭生活に缺陷が多いか、此一事でも解るのである何故なれば外國米といつても吾々と同一人種の支那人が常食として居るものであり殊に少し炊き方に注意すれば決して不味なものではないのに、一般家庭ではその工夫を考へるだけの智識が缺けて居るからである。要するに本講座の廢物利用法は前章の『家政の研究』及び次章の『家庭工業』と相待つて各家庭で十分考慮されたい事なのであります。以上は廢物利用の理論ともいふべき説明をしたのであるが、更に實用的廢物利用法の實例を記載する事にいたします。

◆馬の小便から香料

廢物利用の最も古い例は支那の所謂『牛溲馬勃』で、牛溲とは牛の小便馬勃とは馬の陽物の事、これが藥になるといふのでつまり支那人は此の如

▽牛馬の
小便から
香料

き物迄も利用したのである。

それは支那の昔の事であるが、現に今日でも牛馬の小便からは立派な香料が取れる。それは牛馬の小便には馬尿酸といふ化合物があつて、塩酸とアンモニアを加へて放つて置くと馬尿酸は固まつて底に沈む。

此の固形體を濾して少し製法を加へると安息香酸になる、それを又化學作用で變化するといろ／＼の香水や香油の中に入れる安息香酸アルデハイドといふ非常に匂ひの好いものとなるので牛馬の小便も利用すればこんな有益なものとなるのである。

次に馬の陽物でこれは現在支那人は藥用にするけれども果して藥にするかどうかは疑はしいが、然し最近臓器療法といつて眼の悪い人には動物の眼を喰べさせ心臓の弱い者には動物の心臓を喰べさせるといふ一種の新療法があつて甚だ有効である。

この臟器療法の一法として生殖作用の鈍つた場合に、男ならば翠玉エキ
ス女ならば卵巢エキスを飲ませる、又翠玉から拵へる薬はスベルミンと言
つて老衰を防ぐ力があるといふ。
又青年で身體が肥り過ぎ神経が非常に遲鈍になる事がありますが、これ
は生殖腺が適當に發育するため肥過ぎる事になり頭腦も普通の發育をせぬ
やうになるのである。(農學博士澤村眞氏)

◆科學的廢物利用

木綿糸を苛性曹達の溶液中に入れると絹の様な光りが出て来る、これが
シルケット(我邦でいふ人造絹絲)である。一體工業には不用物らしく見
ゆる物が澤山出来るが、之を活用するミシルケットの如く少からぬ有用物
を製出する事が出来る。

俱俚斯林(普通いふリスリン)は魚油や石鹼製造の廢液から取るのである

がいろく薬用や工業用に用ひられる外に、まだく大きな用途がある。
即ち爆裂物の原料たるダイナマイトになるので、彼の恐るべき爆薬がリス
リンから出来る事聞けば鳥渡驚かれる事であらう。
羊毛を洗つた廢液は四五年前迄は全く廢物として捨てられてゐたが、今日
では貴重な鞣皮の一材料となつて居る。尙更に進んではラノリンといふ薬
品にもなる。

又彼の用途の廣いイーチオールの原料は石油の廢液に外ならない。それ
から諸君が何と考へても使へない極端にいへば觸つても汚い位に思つて居
る木綿のボロ屑がシルケットにもなりセルロイドにもなる。

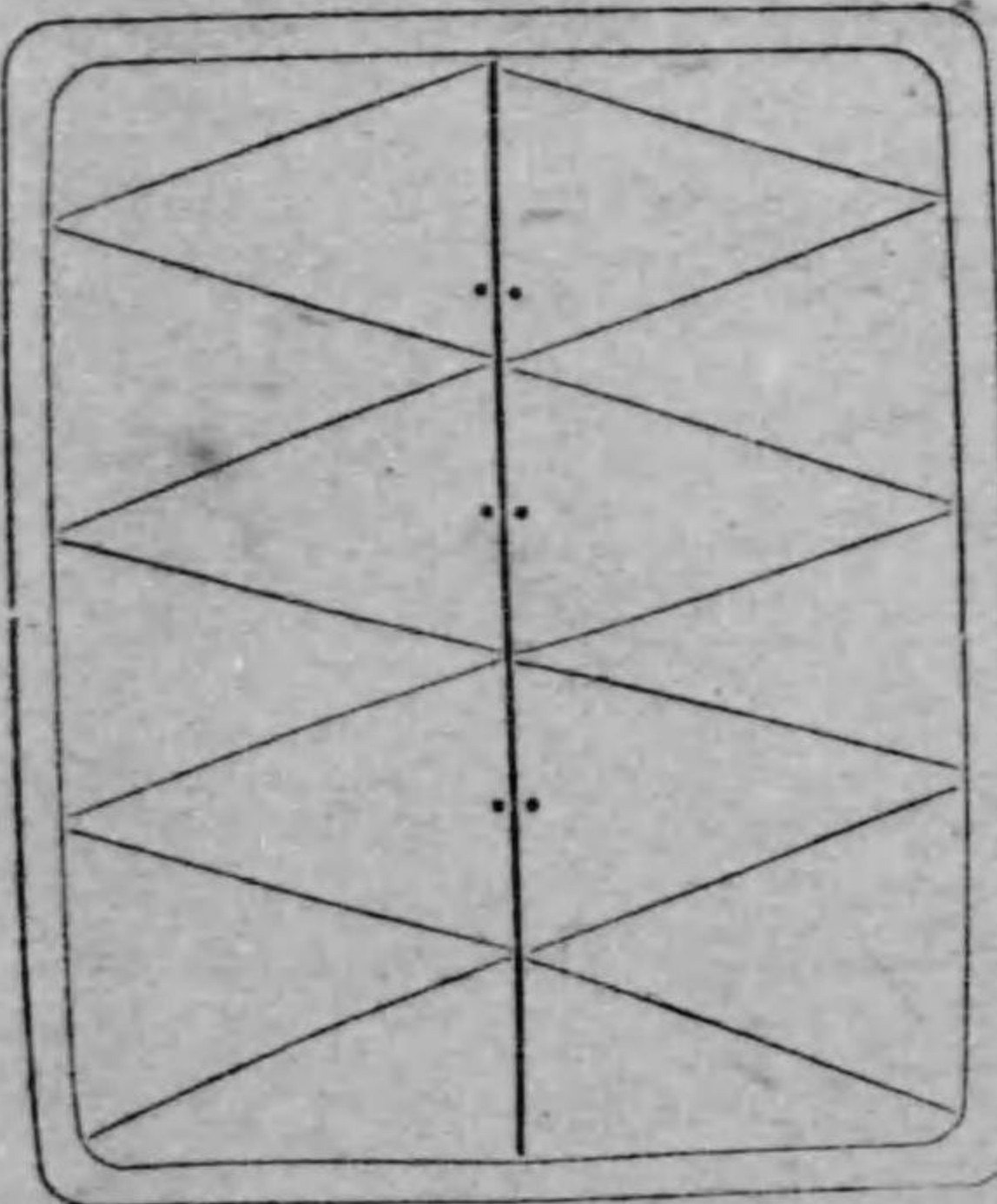
それに白くて美しいチツシペーパー即ち巻煙草の包紙も亦ボロ屑から製
されるので、唯宮中でお用ひになる品だけは全く新しい白布の裁屑から造
つたチツシペーパーで巻く事になつてゐるのみで其他普通の巻煙草の包紙は

▽古洋で
蒲團皮

皆ボロ屑から作るのである。

養蠶業の盛んな我邦では、年々桑の葉を取つた枝の残物が澤山出来るが此の桑の枝の皮を以て美事な蠶卵紙をすく事が出来るやうになつた、これ等は我邦にとつて實に經濟上の大きな利益である。又更に最近にはその皮を剥いた幹も製紙の原料に用ひられて居るのである。(工學博士西田博太郎氏)

◆古洋傘の蒲團皮



洋傘の不用になつたもの二本分の布を外し(女持の洋傘で模様が異つて居れば殊に面白い)三角形に切つたもの十六枚を圖の如く継ぎ合せて配合の好い裏を附け額蒲團に作ると、軽くて體裁の好い掛蒲團が出来る。

▽半襦で
長襦袴

然し二本分だけでは少し小さいから、子供の掛蒲團に相當で若し大人ものならば、三本あれば、十分大きく仕立られます。

◆半襟で長襦袴

大抵婦人の平常着につける襦袴の半襟はメリヤスものが多いが、三四度も洗へば地質はまだ丈夫でも色が悪くなるもので、不用物にする家庭が多い。

若しこれを利用して一筋づゝ継ぎ合せて置けば一人の婦人で八九月もたつと平常着の長襦袴が出来るほどになるから、大勢家内で婦人の多い家庭では是非實行して欲しい。

◆風呂敷でも長襦袴

モスリンなどの風呂敷であれば、四枚でこれも、平常着に見苦しくない長襦袴が出来る。

▽風呂敷
でも長
襦袴

袖は一枚づゝを肩はぎにして二枚で兩袖を作り、脇を切らずに大巾のまゝで縫ひ目を作り、後と前とに一枚づゝを用ひ裾も二枚で胴抜き長襦袢が出来ます。

此の長襦袢は普通のものゝやうに襟をつけず、前巾を少し廣目に拵へると平常着には簡單でよろしい。

◆廢物にならぬ團扇

團扇は、臺所用の澁團扇とか、茶の間用などのもの、總て來客に出さぬものは竹を薄くけづゝて、十字形に兩面から十文字が團扇の中央になるやうに柄を結びつけて置くと、いつまでも腰がへた／＼折れるやうな事はない。

結びつける竹は普通の青竹でも好いが煤竹を用ふれば體裁も好く、手際よく斯うして拵へれば、客に出す團扇に利用しても少しも見苦しくなく腰

が強いから却て風の出がよい。

◆古筆の利用法

古筆の軸を適宜に切つて蚊帳を釣る紐の先に括りつけて置くと蚊帳を釣る度毎に紐を結ぶ必要がなくて大層便利です。

又着物などを釘にかけると赤い錆がついて困るが、古筆の軸を切つて釘を打つ時に釘に箆めて打てば、梅雨時でも着物に錆のつくやうな心配はありません。

太筆は刷毛の代用になります、細筆でも三四本寄せて括つて使へば刷毛の代用が鳥渡出来る。

軸の細いのはいつも婦人が針箱に入れて置くと、長い紐を縫つてかへす時や一人で糸を捲く時などに便利です。糸を捲く時は二本の軸を疊の縁と縁との間に立てゝ之に糸をかけて捲き取れば人手をからずに済む。

▽古親衣
で足袋
履

◆古シャツ足袋履

古いメリヤスの襯衣の不用になつたものを利用して、足袋のカバーと手
套などを作る事が出来ます。

大勢家内の家庭では足袋のカバーや平素の手套を買ふ日には仲々金がか
ゝるけれど、此利用法ではそれだけの入費が省けるわけです。

そしてこれは作り方なども説明するに及ばず、婦人の方は直ぐ工夫して
拵へられる事で、只廢物利用の氣附を興へるだけで十分でせう。

◆半襟で下駄鼻緒

▽半襟で
下駄鼻
緒

メリンスの古襟ならば女物、其他綿柄によつて古半襟で平常ばきの下駄
の鼻緒が出来る。

半襟一掛で四足分は十分とれるし、リボン、ネクタイ、帯などの古いも
のでは仲々氣の利いたものが、主婦の工夫一つで出来る筈です。

▽洗元の
廢物で
養兔

◆流元の廢物で養兔

少しでも畑を持つ家ならば、野菜類いろ／＼の廢物で兔を飼ふのは非常
な利益です。

兎は鶏 などとは違ひ、早く仔を産み又その數も、毎月五六匹から十四
五匹産むので、そして其の仔は、生後一ヶ月位でどんなに安くとも、二十
錢には賣れる。

親兎は昨年の冬は殊に高價で、百匁十七錢にまで昂騰し、例年の約二倍
半になつた。

一體養兔は草さへあれば出来るといふ程のもので、流し元に棄てた廢物
で十分飼養する事が出来る。

▽玉蜀黍
と竹の
皮利用

◆玉蜀黍と竹の皮利用

味噌か魚類を包んだ竹の皮は大抵の家庭で棄て、了ふのですが、これを

▽學生帽
の利用
其他
いろいろ

棄てずに洗つて貯へておけば、種々廢物利用として役に立ちます。
それを四五寸に切り細かく裂いて一握り位に集め、中程を針金でキリキリと巻いて兩端が揃ふやうに切りますと手頃なタワシが出来ます。
又玉蜀黍の皮を同様に用ひますと柔かな飯櫃洗ひに適當なタワシが出来ます。

◆學生帽の利用其他いろいろ

- ◇ 頤紐で裁縫用の指差を作る。
- ◇ 庇の皮や、頤紐で、外套の洋服の掛紐に利用が出来る。
- ◇ 羅紗の古いもので、肘突や下駄の鼻緒や机拭きなどが出来る。
- ◇ 畫用紙は裏表とも使用が出来る。
- ◇ 新聞の號外や引札廣告を集め、學校生徒の練習帳又は家庭ノートが出来る。

▽米の磨
汁の利
用法

- ◇ 墨屑の小さくなつたものを集めて、火にかけて煮、澁汁をませると、杭や板塀などに塗つて防腐劑となる。
- ◇ 古い團扇を古紙にて張り、周圍にボール紙で圍をつけると塵取が出来る。
- ◇ マツナの空箱は種子入にする。
- ◇ 刻煙草の外包みは、毛織物の間に入れておくと蟲を防ぐ。

◆米の磨汁の利用法

米の磨水は何處の家でも毎日出来るもので、そして大抵毎日棄て、了いますが、これほど利用の多いものはない。

▽味噌汁 二度三度目くらゐの磨水で、味噌汁を拵らへると、ちよつと白味噌の味がして結構なばかりでなく、これを飲みつづけてをれば、脚氣に罹らず、便秘に苦しんでゐる人でも順調に便通がつく。

▽茹物用 蓮根、牛蒡、筍等の堅いものを茹でるときに、水のかはりに

▽米糠の
利用法

磨汁で煮ると、早く柔かに煮わる。

▽洗濯水 浴衣とか夏襦袢、夏襦袢だとかその他白い木綿物を洗ふ時には、磨水で洗へば殆んど石鹼を使はずに汚れがとれる。

▽洗面用 磨水の濃いところで顔や手を洗ふと冬も荒れることなく、皮膚を清潔にキメを細かになる。但し混砂搗きの米の白水ではいけない。

▽臭氣止 新らしい漆器の漆の臭氣を止めるには、磨水の濃い所を煮立て、これを二三度かけてゆすげば臭氣が止る。

◆米糠の利用法

▽風邪薬 米糠を炒つて袋に入れ、土瓶で煎じて呑むと、身體中が暖まりから、風邪薬に用ひて効能がある。これを毎晩盃に一杯位呑んで寝ると、胃腸を整へ寝冷たを豫防する効がある。

△洗濯用 手や器物に脂肪がついた時には糠で洗へば容易に落ちる。足

▽灰の利
用法

袋の汚れたのは一寸清潔にならぬものであるが、これは先づ足袋の中に糠をよいほど入れて湯で洗ふと、石鹼で洗ふよりも早く綺麗になる。又た糠袋は昔から婦人の入浴用に無くてならぬものとせられただけに、皮膚をあらすことなく、石鹼よりは非常に好い。

▽針差用 縫針は錆び易いものであるが、糠をよく炒つて袋に入れ、これに針をさしておけば決して錆が出ない、既に錆が出たのでもこれにさしておくと間もなく取れる。

▽磨物用 銅や真鍮の錆びて汚くなつたものには、糠味噌をつけて磨くとそれこそ綺麗になること不思議のやうである。

◆灰の利用法(木炭又は薪の)

▽洗濯水 灰の第一利用法は灰汁をとることで、灰汁は中々重寶な洗濯水となるもので、脂肪で汚れた衣類などを洗ふには、石鹼や洗濯曹達より

も効が多い。灰汁はまた疊や夏帽子の汚れをとり、酒や血の汚點がついたものも、灰汁で洗へば大抵落ちる。灰汁をとるには桶か樽のやうなものに灰を半分ばかり入れ、底に近いところに穴を設けておき、上から水を注いで、必要に應じ灰汁を漉して取るのである。

▽蕨の苦味取り 蕨を煮る前に、灰を少しふりかけて其上に熱湯を注いでおくと、忽ち苦味がすつかり除れる。又芋のすいきを煮るときも灰を少し入れると、苦味がとれて美味くなる。

▽磨粉代用 これは大抵の家で應用して居る事でせうが、實際磨粉の代用を爲し、殊に魚獸肉の脂肪のついた皿、碗などを洗ふには灰に越したものは無い。

▽貯藏用 灰をよくふるひにかけて箱に入れ、これに鯉節を貯藏すると鯉節に蟲などがつかない。

▽粗殼の
利用法

▽疊の汚點ぬき インキなど疊にこぼした時に、雑巾などで拭けば却つていけないが、卽座に灰を振りかけるとインキは灰に吸収されるから、これを取り除け、次に塩をまいて疊をトク／＼叩くとインキの残りがきれいに除れる。石油や蠟などをこぼした時は、先づその上に新聞紙をしき、熱灰を少しふりかけておくと、石油や蠟は悉くその灰に吸収されて了ひます

◆粗殼の利用法

▽枕の材料 これは誰でも知つてゐる事でせう。

▽貯藏用 よく乾いた粗殼中に鶏卵を入れておくと外界の空氣の變化から受ける腐敗を防ぐ事が出来、比較的永く貯藏する事が出来る、梨や蜜柑のやうな果物類も亦粗殼の中に箱詰にしておけば永く變味を防ぐ。

▽便所用 大便所の肥料を汲みとつたあとには、よく反撥るものですが、かういふ時に粗殼をまいておけばその虞がない。

【三】 家庭工業

家庭工業といふ新熟語は、製造工場で大仕掛に行れる生産品、或はその材料となるべきもの、又は製品の下拵ひ等を各家庭で行ふといふのが元來の意味であります。それは製造工業の進歩してゐる歐米諸國の如きさへも、主として都會或は工場の多い地方だけに限られる事で、況して我邦に於ては此の新熟語の意味通りに解釋した家庭工業といふものはほんの都會地に限られて行はれてゐるに過ぎない。比較的廣く行はれてゐるものでも例へばマニラ麻糸つなぎとか、貝釦磨きとか、マツチの箱張りとか、玩具の下拵ひとか、新しいものでミシン裁縫とか、バンチオークとか、ドロノオークとか製造工場又は商店等と特殊の關係無しには、何處でも家庭で直に行ふといふわけにはいかないものが多い。

然るにさういふ文字通りの家庭工業が東京とか大阪とかいふ都會地には近年盛んに行はれて、家庭の副業とか内職とかいふもの、大部分を占むるに至つたので、今日では家庭工業といふ新熟語が副業とか内職とかいふ廣い意味に使用され、同じ仕事でも内職といふ古い言葉よりも家庭工業と云つた方が新しい仕事に聞へるし、且つ従來の内職といふ種類に實際新しい科學的智識が應用されたものになつたのであるから今日盛んに獎勵され流行を來してゐる家庭工業といふ事は科學的智識を加へた家庭の副業とか内職とかいふ廣い意味に解釋しなければならぬ。即ち此の家庭の内職とか副業とかいふ點に家庭工業の實際利益が生じるので家庭から獨立してしまつては、それは一つの專業になつて家庭工業本來の意味が失はれ、小規模に行つては到底利益を見難い事になる。それから家庭工業の流行が、種々科學的智識に注意せしめ延いて一家の臺所にも、家政の上にも亦前章に詳

述べた無駄なき生活としての廢物利用等にもいろいろと工夫をする動機と刺戟を與へる事は非常なもので此點は金錢以外の利益を齎すものといふ事が出来るのである。それであるから理想からいへば如何なる職業を問はず商家であらうが、農家であらうが又副業とか内職とかをする必要の無い資産階級でも、何か一つの家庭工業を試みてゐるといふ事は、生活を引縮る上にも、經濟の運用、利殖の能率を進める上にも知らず識らずの間に多大の好影響を與へられる事になるので、本欄に於て順次實例を讀まれるに當り特に讀者の注意を希ふものであります。

吾人は從來處世上に舊套な思想、囚はれた習慣を排して新生面を開かねばならぬといふ事を屢繰返したところであるが世人は稍もすれば未だに内職とか副業の類を確たる理由無しに賤しむ風がある。是は勿論少しく徹底して考へたならば取るに足らぬ舊弊で、苟しも吾人が餘裕を利用し、活

動の元氣と能率を進める事が内職とか副業とか成るのであるから、個人として立派な健實な行爲であり、且つ此の個人の勞力が蒐まつては國家の福祉と成るのである。例へば農家が勞力の餘裕を利用して種々の家庭工業を營み、それが一國の國産となるものは世界各國を通じて莫大なものである。即ち露國の農家からは有名な露西亞更紗が製出されるし、獨逸の農家で盛んに製作する玩具類、瑞西の百姓が家庭工業として加工する時計のゼンマイ、英吉利のスコットランドの農家から産出する洋服地のスコッチ等は何れも農家の家庭工業が多額の國産を産出し國家的莫大な利益を圖るに至つたものである。

我邦に於ても養蠶は農家第一の副業で、その生絲の輸出年額二億といふ巨額に達して居る。其他我邦農家に行はれて居る主要の家庭工業は織物で關東地方の秩父縞、伊勢崎縞、足利織、關西地方で鳴海絞、伊豫絁等甚

だ多い。而して夫等は皆人の知る所であるが、餘り世人の注意を惹かぬもので農村の家庭工業として地方經濟を豊にしてゐるものが中々多い。一例を挙げれば東京附近中川上流地方數ヶ村は、藁細工をして繩、吠、俵、蓆等を盛んに産出するが、その東京だけに移入される一年の總金額を約十五萬圓に達してゐる現狀で、これを以て見れば少くとも家庭工業（内職副業等を併せて）を營んで居る農村、言へ換へれば勞力の利用を巧にやつて居る農村の利殖は延いて國家的利益となつて居るのである。

併し此處に注意すべき點は、一般的に言つて内職とか副業とかを初める際にその好い方面ばかりを見て、苦しい方面を少しも考へないために、折角試みかけた仕事を遣り切らずに棄て、了ふ人が多い事である。そして恣ういふ人に限つて甲から乙へと仕事から仕事へ轉々して行くのみで、遂に勞力を徒費し所謂骨折損の草臥儲けといふ結果に終るので、何事でも勞力

があつてこそ報酬が得られぬのであるから、或程度迄苦痛に耐へ忍んで仕事を貫徹しなければならぬ。又内職にしろ副業にしろ其目的は金銭である事は勿論であるが、只金銭づくで遣つて行くといふ金銭本位一途でなく、尠くとも仕事本位で熱心に従事する人でなければ最後の勝利を得る事は出來ない。若しも一途に金銭本位で遣る事になれば、どかく仕事の手を省いて儲ける事ばかり考へるから到底忠實な仕事は出來ず、その結果は粗製濫造に陥り、國産の増殖どころか却つて名聲を傷つけ、自己はもとより失敗を免れず延いて國家社會に損害を與へる事になる。鳥渡考へれば仕事本位では餘り正直過ぎて利益にならぬやうに思ふかも知れないが、昔から『損して得取れ』と訓へてあるやうに、かういふ損は最後の得となるのである。吾人が一つの文章を書く時でも、疑はしい所や徹底しない所があれば、いくら勞力が損でも致方がない、最も忠實に徹底するまで苦心勞作をせねば